

# 長野県埋蔵文化財センター年報34

～ 2017年度～

一般財団法人長野県文化振興事業団  
長野県埋蔵文化財センター





長野市 小島・柳原遺跡群 竪穴建物跡（平安時代）



長野市 石川条里遺跡遠景（北東方向から 奥に冠着山を望む）



長野市 長谷鶴前遺跡群 轆轤台石を伴う工房跡（近代）



朝日村 山鳥場遺跡 13号竪穴建物跡埋甕（縄文時代中期後葉）高さ 23cm



飯田市 下川原遺跡 石を並べた土坑（中世）



栄村 ひんご遺跡 土器（縄文時代後期前葉） 右端：高さ 35cm



長野市 浅川扇状地遺跡群 和同開珎（古代） 径 25.5mm × 厚さ 1.5mm



松本市 出川南遺跡 台付甕（古墳時代前期） 右端：高さ 22cm

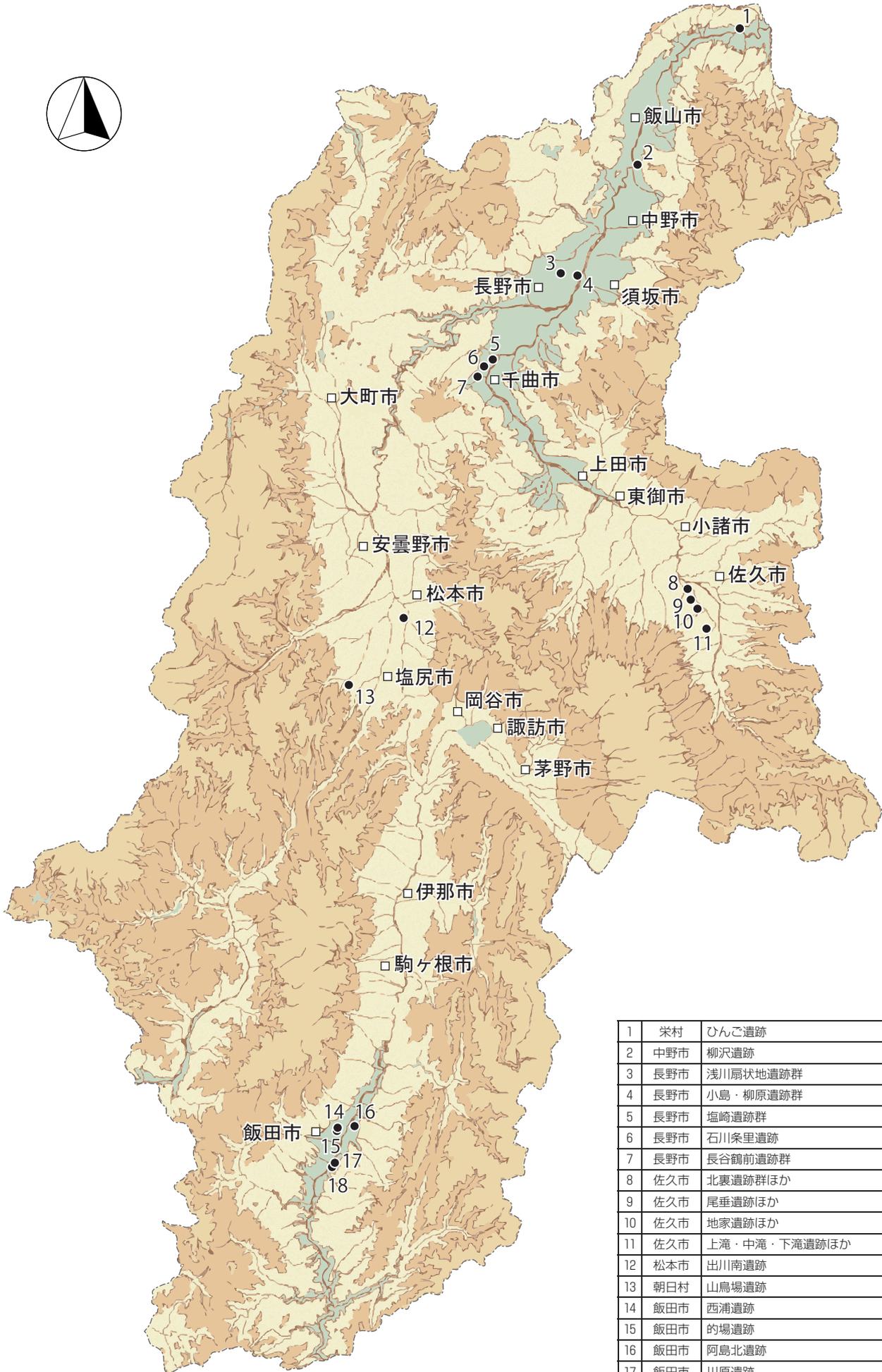
# 目 次

## 口絵写真

- ・長野市 小島・柳原遺跡群 竪穴建物跡
- ・長野市 石川条里遺跡 遠景
- ・長野市 長谷鶴前遺跡群 工房跡
- ・朝日村 山鳥場遺跡 埋甕
- ・飯田市 下川原遺跡 石を並べた土坑
- ・栄 村 ひんご遺跡 土器
- ・長野市 浅川扇状地遺跡群 和同開珎
- ・松本市 出川南遺跡 台付甕

## 目 次

I 2017年度の事業概要	1	(6) 現地説明会（含む遺跡公開）	33
		(7) 県庁ロビー展等展示会	33
II 発掘作業の概要	2	V 有識者による鑑定・指導	35
(1) 柳沢遺跡	3	VI 会議・研修会等への参加	36
(2) 小島・柳原遺跡群	4	(1) 会議・委員会等	36
(3) 塩崎遺跡群	7	(2) 研修会・資料調査等	37
(4) 石川条里遺跡	8	VII 学校・関係機関等への協力	38
(5) 長谷鶴前遺跡群	10	(1) 学校関係への協力	38
(6) 山鳥場遺跡	13	(2) 講師等の派遣・技術指導	38
(7) 下川原遺跡	16	(3) 事業関係機関等への協力	39
(8) 飯田市の場遺跡ほか	17	(4) 調査資料貸与・閲覧等	40
III 整理等作業の概要	18	VIII 組織・事業の概要	41
(1) ひんご遺跡	19	(1) 組織	
(2) 塩崎遺跡群	20	(2) 職員	
(3) 浅川扇状地遺跡群	22	(3) 事業	
(4) 佐久市地家遺跡ほか	24	IX 調査研究ノート	43
(5) 出川南遺跡	25	(1) 塩崎遺跡群出土石器と石材の紹介	43
(6) 川原遺跡	27	(2) 長野県における古代瓦出土地点 (東北信編)	47
IV 普及公開活動の概要	28	奥付	
(1) 施設公開	29		
(2) 講演会	30		
(3) 出前授業・発掘体験等	30		
(4) 出版物	32		
(5) 体験学習用教材	32		



1	栄村	ひんご遺跡
2	中野市	柳沢遺跡
3	長野市	浅川扇状地遺跡群
4	長野市	小島・柳原遺跡群
5	長野市	塩崎遺跡群
6	長野市	石川条里遺跡
7	長野市	長谷鶴前遺跡群
8	佐久市	北裏遺跡群ほか
9	佐久市	尾垂遺跡ほか
10	佐久市	地家遺跡ほか
11	佐久市	上滝・中滝・下滝遺跡ほか
12	松本市	出川南遺跡
13	朝日村	山鳥場遺跡
14	飯田市	西浦遺跡
15	飯田市	的場遺跡
16	飯田市	阿島北遺跡
17	飯田市	川原遺跡
18	飯田市	下川原遺跡

図1 2017年度調査・整理対象遺跡

## I 2017年度の事業概要

2017（平成29）年度は、国または県の公共開発事業にかかる発掘調査事業9件に加えJR東海のリニア新幹線関連事業1件および研修等事業1件を受託した。また、自主事業として4遺跡で遺跡現地説明会を、北信合同庁舎ほか2か所でロビー展を行った。

### 1 発掘調査事業

国土交通省4億434万円、長野県1億9,546万円、JR東海440万円の計6億420万円余りの受託費により、8遺跡の本発掘作業と3遺跡の確認調査、36遺跡の整理作業を行った。

#### (1) 発掘作業

中野市柳沢遺跡（県道建設事業）では、千曲川築堤に伴う調査で確認した弥生時代中期の溝跡の延長を検出し、水田跡が南西側へ延びることが確実となった。また、東側斜面から同期の堅穴建物跡がみつきり、居住域が青銅器埋納坑の北側だけでなく、広範囲に広がる可能性が出てきた。

長野市小島・柳原遺跡群（国道改築工事）では、昨年度出土した塔鏡形合子を中心に同遺跡の調査を円滑に進めるため、遺跡調査指導委員会を立ち上げた。今年度の調査では、古代の居住域が北八幡川に沿って東西に細長く延びる微高地上に立地していたことが確定した。そのなかには、塔鏡形合子が出土した建物跡と規模・形態が類似した壁立式堅穴建物跡もある。中世以降は主に墓域に転換するという土地利用の変遷を含め、今後は合子そのものの分析とともに、出土の背景を探る作業をさらに進めることになる。

長野市石川条里遺跡（国道改築工事）では、中・近世以降の居住遺構、平安時代の水田遺構、古墳時代および弥生時代の水田跡が、上下の各文化層に分かれていた。弥生水田は一筆の面積が5～25m<sup>2</sup>と一定していないが、地形に合わせた畦畔の構築状況等を把握することができた。

長野市長谷鶴前遺跡群でも、近代の陶器製作工房跡、中世の道路跡や堀跡、古代の水田跡を各文化層で検出した。東西16m、南北4.5mの近代の工房跡には轆轤台石が据えられ、粘土や焼土とともに窯道具や焼き損じ品が多数出土した。窯本体は確認できなかったが、文献上明らかな長谷焼に

関連する施設であることはほぼ間違いない。調査区中央北で検出したL字に屈折する中世の堀跡は、幅5m、深さ約1mと大規模で、方形居館の南東隅に当たるとみてよいらう。

朝日村山鳥場遺跡（県道建設事業）は、昨年度と合わせ縄文時代中期後半の堅穴建物跡14棟を検出した。建物の規模・形態や炉等の施設、出土遺物は、当該期の松本平に広まった唐草文文化に通有の特徴を備えている。並行して行った土器片の分析鑑定で、エゴマおよびダイズ属、ササゲ属アズキ亜属の種実圧痕がみつかった。

飯田市下川原遺跡（天竜川築堤護岸工事）は、遺跡のほぼ全面を天竜川の洪水砂が分厚く覆っていたが、狭い微高地上から中世の集石を伴う土坑等がみつきり、土地利用のあり方に一石を投じた。

飯田市的場遺跡、西浦遺跡、喬木村阿島北遺跡では、JR東海のリニア中央新幹線に関わる遺跡の内容確認調査を実施した。

#### (2) 整理等作業

中部横断自動車道関連の地家遺跡ほか30遺跡、栄村ひんご遺跡、長野市浅川扇状地遺跡群、同市塩崎遺跡群、飯田市川原遺跡の整理作業を行い、松本市出川南遺跡の報告書を刊行した。

塩崎遺跡群の弥生時代鉄製品には、朝鮮半島製の板状鉄斧を切断・再加工したものや、穿孔具等に再利用した鉄片があることが明らかになった。

### 2 研修、普及公開事業

県教育委員会から76.9万円を受託し、研修および普及公開事業を実施した。

研修事業は、奈良文化財研究所の専門研修「古代・中近世瓦調査課程」ほか4講座を受講した。

普及公開事業は、文化庁の文化財補助金（「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」）を活用するなどして、展示会、体験学習会、講演会・シンポジウム、出前授業等を実施し、総計16,751名が参加した。また、広報資料「信州の遺跡」「ジュニアこうこがく」や、出前授業用教材として柳沢遺跡出土銅鐸模造品を作成した。（平林 彰）

## II 発掘作業の概要

遺跡名	所在地	事業名	面積 m <sup>2</sup>	調査期間	時代・内容	主な遺物
やなぎさわ 柳 沢	中野市	社会資本整備 総合交付金 (広域連携) (ゼロ県債) 事業 (一) 中野飯山線	3,350	4月10日～10月2日	縄文：炉跡 弥生：竪穴建物跡、溝跡、遺物集中 平安：溝跡、遺物集中 平安・中近世以降：土坑 近世以降：溝跡	縄文・弥生・古代：土器、土師器、須恵器、灰釉陶器 中世：内耳土器
こじま やなぎはら 小島・柳原 いせきぐん 遺跡群	長野市	一般国道18号 (長野東バイパス) 改築工事	1,800	4月7日～12月18日	平安：竪穴建物跡、遺物集中 平安～近世：土坑 平安～中近世：溝跡 中世～近世：墓跡、遺物集中	奈良：瓦 平安・中近世：土器・陶磁器（土師器・須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、内耳土器、瓦質土器、陶磁器） 平安・中近世：石製品（丸軋・五輪塔・石臼） 中近世：木製品（曲物）、金属製品（銭貨・釘）、骨（人骨・獣骨）
しおぎさいせきぐん 塩崎遺跡群	長野市	一般国道18号 (坂城更埴バイパス) 改築工事	60	11月1日～12月20日	平安：竪穴建物跡 弥生～中世：土坑	弥生～平安：土器 その他：鉄製品、黒曜石
いしかわじょうり 石川 条里			5,500	4月5日～12月20日	弥生：水田跡 弥生～平安：畦畔 弥生～近世以降：土坑 弥生～近代：溝跡 中世以降：掘立柱建物跡 近世以降：畝状遺構	弥生～近世以降：土器、陶磁器 中近世：石製品（石鉢） 近世以降：金属製品（煙管）、鉄滓
はせつるさき 長谷鶴前 いせきぐん 遺跡群			7,200	4月11日～12月20日	平安～中世：水田跡 中世：道路状遺構 中世～近代：掘立柱建物跡、溝跡 近世：竪穴建物跡 近代：工房跡	縄文：石器・石製品（石鏃・磨石） 中世：木製品（曲物・箱物・漆器） 中世～近代：土器（内耳土器、墨書土器、陶磁器）、銭（宋銭、寛永通宝等） 近世・近代：金属製品（棒状鉄製品、キセル）
やまとりば 山鳥場	朝日村	県単道路改築事業 (ゼロ県債) (一) 御馬越塩尻 (停) 線	1,484	4月5日～10月31日	縄文：竪穴建物跡、土坑	縄文：土器（深鉢、鉢）、土偶（頭・胴・足部）、石器（石鏃、打製・磨製石斧、横刃形石器、石皿、磨石、凹石、剥片ほか） その他：骨片、炭化物
さんがくみ 三ヶ組			4,585	4月5日～6月1日	なし	縄文：石鏃、打製石斧
しもがわら 下川原	飯田市	天竜川 下久堅地区 築堤護岸工事	4,000	8月1日～12月8日	中近世：土坑	縄文・平安～中近世：土器、土師器、灰釉陶器、内耳土器、陶磁器 縄文：石器（石鏃、打製石斧、石錘、台石、磨石）
まとば 的場		JR 東海中央 新幹線工事	172.6 (確認)	11月27日～12月20日	なし	近世：土器・陶磁器（輪禿皿、仏飯器、播鉢ほか）
にしうら 西浦			413.3 (確認)		近世：溝跡、土坑	縄文・近世：土器、かわらけ、内耳土器、播鉢 縄文：打製石斧
あじまきた 阿島北			413.36 (確認)		なし	なし

# (1) やなぎさわ いせき 柳沢遺跡

社会資本整備総合交付金（広域連携）  
（ゼロ県債）事業（一）中野飯山線

所在地および交通案内：中野市柳沢字日焼・屋敷添。

国道 292 号線小牧橋の南交差点から東約 600m。

遺跡の立地環境：高社山麓の崖錐地形先端部および夜間瀬川沿いの低地。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
2017.4.10～10.2	3,350m <sup>2</sup>	鶴田典昭 長谷川桂子

検出遺構

遺構の種類	数	時期
炉跡	3 (3)	縄文時代中期
竪穴建物跡	1 (1)	弥生時代中期
土坑	28 (38)	平安時代、中近世以降
溝跡	8 (9)	弥生時代中期、近世以降
遺物集中	3 (3)	弥生時代中期、平安時代

( ) 内は 2016 年度との合計数

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文中後期、弥生中後期、古代（土師器、須恵器） 中近世（内耳土器・陶磁器）
石器	縄文中後期（打製石斧）、弥生中期（刃器・凹石）
その他	古代（鉄製品）、 中世以降（鉄製品、木製品）

## 調査の概要

B 区では、縄文時代中期の炉跡と思われる石組が 3 基確認され、縄文時代中期と後期の土器・石器が出土した。C 区では、3 か所の遺物集中と弥生時代中期の溝跡（築堤地点 3 号溝の続き）を確認した。D 区では、弥生時代中期の竪穴建物跡と平安時代の柱穴と思われる土坑群を確認した。C 区・D 区における遺構と遺物の出土状況を勧案すると、弥生時代の水田は築堤地点の南側（C 区の西側）にも広がり、C 区東側の斜面上方には弥生時代と平安時代の集落跡が存在することが想定される。弥生時代の集落が青銅器埋納坑の北側だけでなく、南側にも存在する蓋然性が高いことが判明した。  
(鶴田典昭)

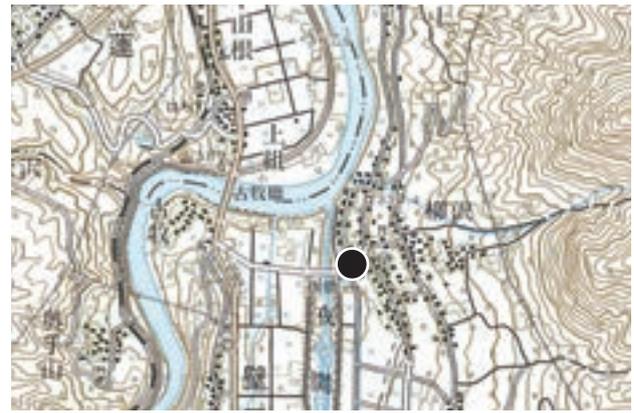


図 2 遺跡の位置 (1 : 50,000 中野)

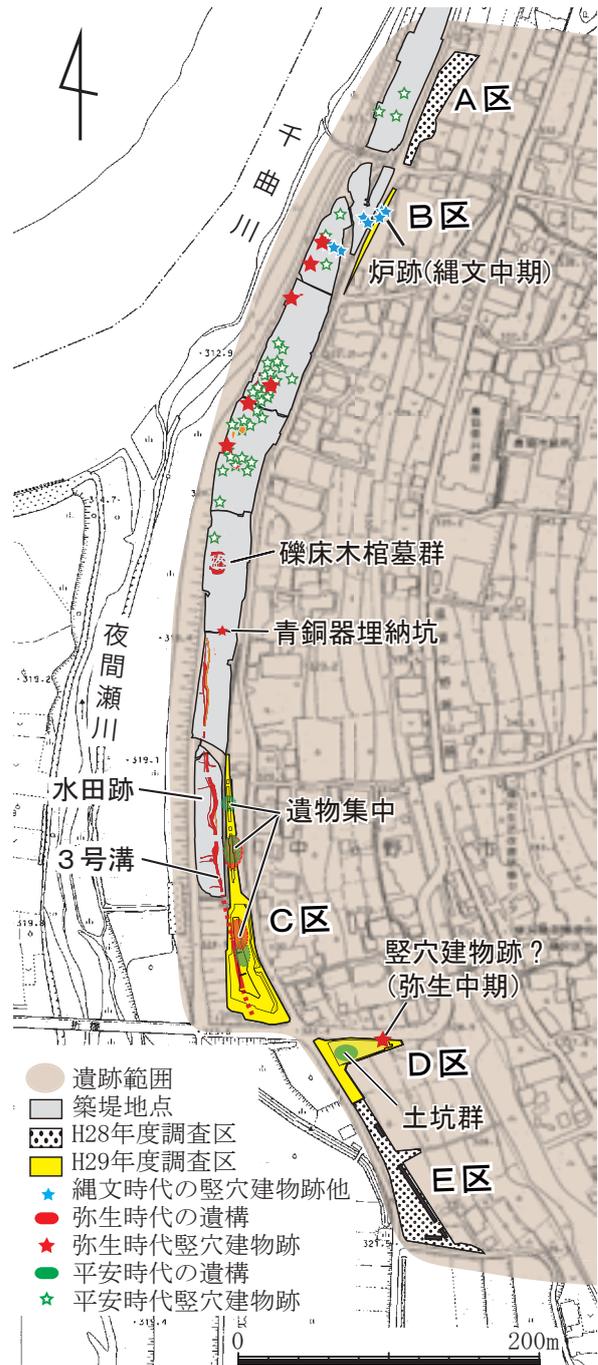


図 3 柳沢遺跡全体図

## (2) 小島・柳原遺跡群

一般国道18号（長野東バイパス）  
改築工事

所在地および交通案内：長野市柳原1714ほか  
長野電鉄柳原駅から南東約450m。

遺跡の立地環境：千曲川左岸の自然堤防上に立地。

### 発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
2017.4.7～12.18	1,800m <sup>2</sup>	寺内貴美子 石丸敦史 長谷川桂子 小林伸子

### 検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴建物跡	20 (35)	平安
土坑	304 (686)	平安～近世
溝跡	15 (24)	平安～中世
焼土跡	16 (21)	中世～近世
墓跡	43 (66)	中世～近世
遺物集中	1 (5)	平安

( ) 内は2016年度との合計数

### 調査の概要

一般国道18号長野東バイパス改築工事に伴う発掘調査は2年目である。本年度は、北八幡川と村山堰にはさまれた2区東半分の調査を実施した。昨年度同様に平安時代、中世～近世の遺構・遺物が検出された。

### 平安時代の遺構

竪穴建物跡が北八幡川に沿うようにみつかり、東西に細長く伸びる幅の狭い微高地上に構築されたと考えられる。竪穴建物跡の多くは密集して切り合っており、さらに埋没状況や出土する土器から短期間に建て替えが繰り返されたと思われる。カマドは北側もしくは東側に設置されるが、遺存状態は悪い。

主柱穴以外に壁際に柱穴をもつ大型の竪穴建物跡（巻頭写真）を検出した。昨年度、塔鏡形合子

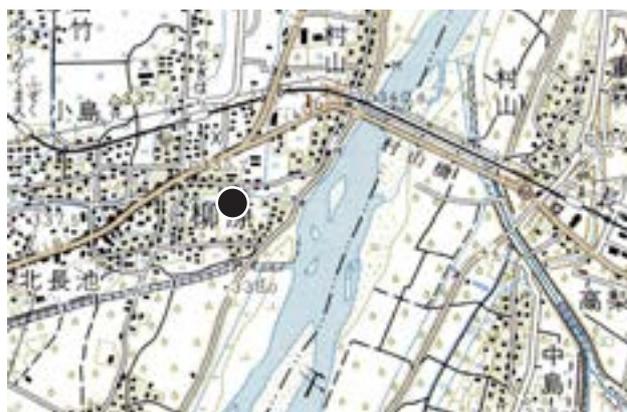


図4 小島・柳原遺跡群の位置（1：50,000 須坂）

### 出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器・土製品	奈良（瓦） 平安（土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器） 中近世（内耳土器、瓦質土器、陶磁器）
石製品	平安（丸鞆） 中近世（五輪塔、石臼）
木製品	中近世（曲物）
金属製品	中近世（銭貨、釘）
骨	中近世（人骨、獣骨）

が出土した竪穴建物跡とよく似ており、調査区内の他の竪穴建物跡と比べ一辺約6mと規模が大きい。壁立建物の可能性があり、集落の中心的役割を成したと考えられる。今後、遺構の性格や周囲の竪穴建物跡との関係について詳細に検討していく必要がある。

その周囲の竪穴建物跡からは、石製の丸鞆<sup>まるとも</sup>が出土している。表面の下方2つの穴には金属製の鉾が残っている。金属に錆びはみられない。成分分析はしていないが、光沢があり、堅く緻密なので、

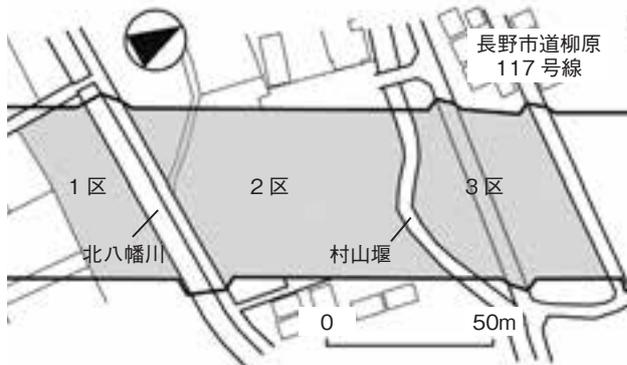


図5 小島・柳原遺跡群調査範囲

透緑閃石岩ではないかと思われる。

他には、遺構には伴っていないが奈良時代の平瓦片が出土した。凹面全体に布痕と摸骨痕が観察でき、桶巻作りと考えられる。凸面の表面は剥離が激しいが、格子目叩きがわずかに残る。胎土には、赤褐色粒子が特徴的に含まれる。これは、善光寺周辺の遺跡や窯跡出土の古代瓦の胎土にも含まれており、この一帯で製作、使用された瓦の特徴と考えられる。



図6 丸靱

### 中世から近世の遺構

焼成遺構と思われる中世の遺構が検出されている。燃焼部の内側は激しく焼けており、カマドの煙道のような筒状の掘り込みをもつ。燃焼部からは内耳土器片が多量に出土しているが、内耳土器を焼いたとするには規模が小さく、本来何を焼成していたのか、類例を含めて検討が必要である。

昨年に引き続き、墓跡を確認している。平安時代の竪穴建物跡の埋土を掘り込んでいる墓跡があることから、平安時代の集落が廃絶された後、墓

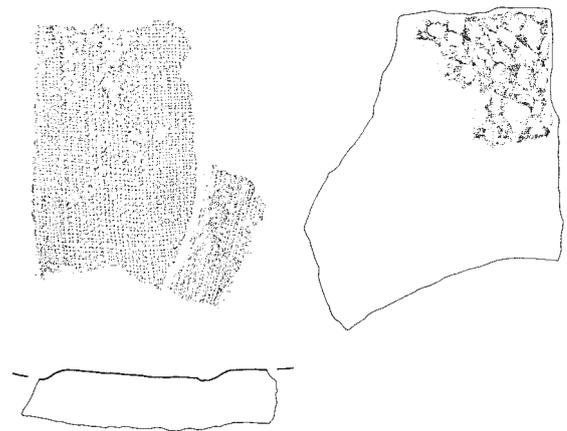


図7 瓦の実測図 (S=1/3)



図8 遺跡全景（南から）

域としての土地利用があったといえる。土葬墓のなかには鉄釘が出土するなど、木棺の痕跡が残るもの、土坑底に礫を置いていたものなどが確認された。火葬骨はまとまった状態で点在して検出されており、容器等に入れた状態で埋葬されたと考えられる。土葬墓、火葬墓ともに遺物の出土が少ないため時期決定が困難である。埋葬方法の違いなどを含め今後の課題である。

五輪塔は、検出面や土坑底からの出土が目立った。宝篋印塔の笠も1点出土している。土坑底から出土した五輪塔は、地輪、火輪を礎石として再利用している。火輪は天地を逆にして平坦面が広い方を上にして据えられており、柱を安定して建てられるよう、用途に合わせた使い方をしていたと思われる。

#### 調査指導委員会の設置

昨年度、この遺跡群からは「塔鏡形合子」の蓋が出土した。古代仏教で使用されたと考えられるこの遺物の希少かつ重要性を考慮し、小島・柳原遺跡群調査指導委員会が設置された。第1回委員会は8月に開催し、仏教に関する考古学や仏教工芸、歴史材料科学等に詳しい委員によって、遺跡の環境や検出された遺構・遺物、塔鏡形合子等の現状を確認し、今後の調査の進め方について指導を受けた。第2回委員会は、来年度前半に行う予定である。  
(寺内貴美子)



図10 中世の焼成遺構



図11 土葬墓



図12 土坑底に礫が出土した墓跡



図9 調査指導委員会による指導



図13 礎石に転用された五輪塔

### (3) 塩崎遺跡群

一般国道 18 号（坂城更埴バイパス）  
改築工事

所在地および交通案内：長野市篠ノ井塩崎字中条  
JR 篠ノ井線稲荷山駅から南東 1km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸の自然堤防（標高  
358m 付近）に立地し、調査区は自然堤防を横  
断するように位置する。

#### 発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
2017.11.1 ~ 12.20	60m <sup>2</sup>	河西克造 市川隆之 廣瀬昭弘 風間真起子

#### 検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴建物跡	1	平安
土坑	1	弥生～中世

（今年度までの遺構合計数は P20 参照）

#### 出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	弥生～平安（弥生土器、土師器、須恵器）
石器	弥生（黒曜石剥片）
金属製品	平安（鎌）

#### 調査の概要

2013 年度から 4 年間にわたった塩崎遺跡群の発掘調査は、昨年度までにはほぼ終了した。今年度は、昨年度調査区（3 区）の北東隅に当たる農道下部分において調査を行い、平安時代の竪穴建物跡を検出した。昨年度の調査成果によって、千曲川の自然堤防上に営まれた大集落が西側縁辺部に向かうにつれて散漫に展開していく様相が明らかとなった。今年度検出された竪穴建物跡も、こうした集落西端に位置する住居の一つと考えられる。

なお、今後予定される塩崎遺跡群の発掘調査は、市道下を残すのみとなった。（風間真起子）

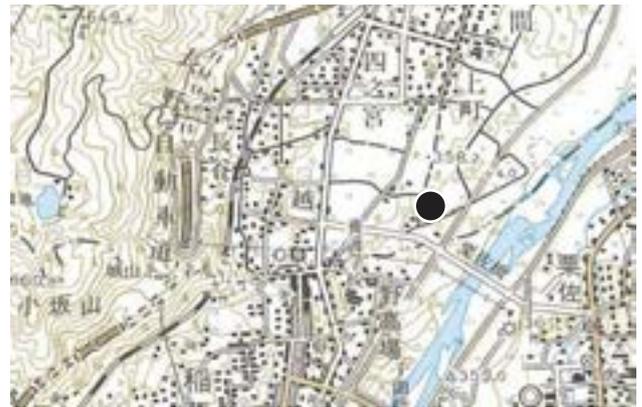


図 14 塩崎遺跡群の位置（1:50,000 長野）



図 15 東向きのカマドをもつ平安時代の住居跡

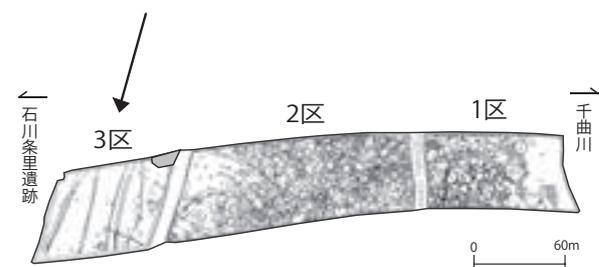
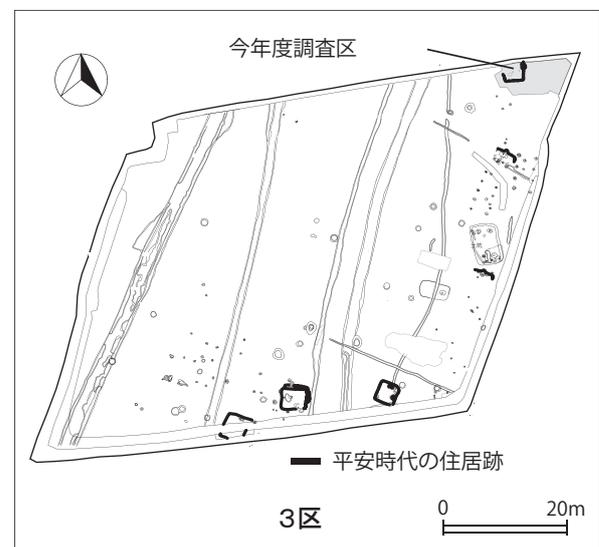


図 16 塩崎遺跡群遺構配置図

# (4) 石川条里遺跡

一般国道 18 号（坂城更埴バイパス）  
改築工事

所在地および交通案内：長野市篠ノ井塩崎 352-1  
ほか。JR 篠ノ井線稲荷山駅から南東約 1km。  
遺跡の立地環境：千曲川左岸の後背低地（標高  
357m 付近）に立地し、調査区は後背低地を横  
断するように位置する。

## 発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
2017.4.5 ~ 12.20	5,500m <sup>2</sup>	河西克造 櫻井秀雄 市川隆之 廣瀬昭弘 小林伸子 風間真起子

## 検出遺構

遺構の種類	数	時期
掘立柱建物跡	1 (7)	中世以降
溝跡	32 (130)	弥生～近代
墓跡	0 (5)	中～近世
土坑	45 (404)	弥生～近世以降
井戸跡	0 (40)	中～近世
畦畔	15 (49)	弥生～平安
水田跡	1 (1)	弥生
畝状遺構	1 (1)	近世以降 (天地返し)

( ) 内は 2016 年度との合計数



図 17 石川条里遺跡の位置 (1:50,000 長野)

## 出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	弥生～近世以降 (土器、陶磁器)
石製品	中・近世 (石鉢)
金属製品	近世以降 (煙管)
その他	近世以降 (鉄滓)

## 調査の概要

千曲川左岸の自然堤防上には、弥生時代～中世に至る集落跡（塩崎遺跡群）が立地する。石川条里遺跡は、この自然堤防背後（西側）の後背湿地に展開する水田を主体とした遺跡である。

昨年度の調査では、平安時代、古墳時代～奈良時代、弥生時代の水田層と、平安時代の畦畔は検出されたが、水田跡（畦畔による小区画）は確認されていない。今回は水田跡の検出を最大の調査課題とした。

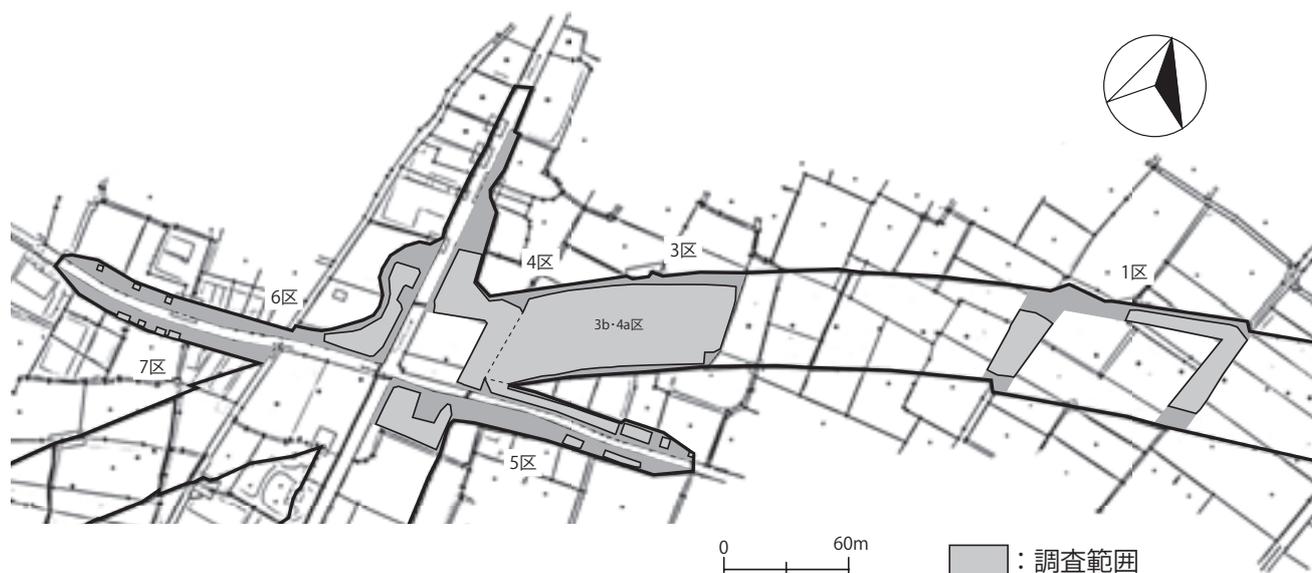


図 18 石川条里遺跡 2017 年度調査地区

### 弥生時代から連綿と続く水田

今回の調査では地表面下約3mまで掘削したところ、弥生時代～現在に至るまで水田層が重層的に堆積する状況が確認された。調査は、地区によって土層堆積状況が異なり、また調査面積が狭小なことから、確認調査にとどめた場所もあるが、基本的に昨年度と同様に4面を調査した。1面で中近世以降の居住遺構、2面で平安時代の水田遺構、3面で古墳時代の水田遺構、4面で弥生時代の水田跡が確認された。

### 小区画が展開する弥生水田の発見

1988年度～1991年度にわたる高速道地点の調査（約7万m<sup>2</sup>）では弥生時代の水田跡（畦畔による区画）が確認されており、今回の調査では被覆砂層が極めて薄く残る状況であったものの、水田跡が発見された。水田跡の時期は、水田層から弥生時代の土器片が出土したことから、同時期に比定できる。水田一筆の面積は5～25m<sup>2</sup>を測り、一定していない。調査区内の地形は、北西側にある微高地から東側に傾斜しており、畦畔は微高地の裾と平行もしくは直交方向に構築されている。調査時には前者の畦畔が検出しやすく、また畦畔

の交点を越えて直線的に通る状況が確認された。長野市川田条里遺跡の調査事例が示すように、これは、微高地の裾に平行する畦畔を構築し、水田内を短冊状に仕切った後に、直交する畦畔を構築したものと推測される。

塩崎遺跡群存続時における後背湿地の土地利用の解明が最大の課題である。来年度以降の調査成果を踏まえて、水田の時期的変遷と分布域の消長を把握することが必要である。（河西克造）



図19 石川条里遺跡 3b・4a区 弥生時代の水田跡 測量風景



図20 石川条里遺跡 3b・4a区 弥生時代の水田跡全景（写真右上が北）

## (5) はせつるさきいせきぐん 長谷鶴前遺跡群

一般国道 18 号 (坂城更埴バイパス)  
改築工事

所在地および交通案内：長野市篠ノ井塩崎 26 ほか  
JR 篠ノ井線稲荷山駅から南西約 1.5km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸の山々が形成する、  
崖錐地の傾斜地と蓮田と呼ばれる低湿地部分  
(標高 358m 付近) にかけて立地する。

### 発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
2017.4.11 ~ 12.20	7,200m <sup>2</sup>	近藤尚義 柴田洋孝 市川隆之 小林伸子 風間真起子

### 検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴建物跡	1	近世
掘立柱建物跡	1	中世
工房跡	1	近代
溝跡 (含暗渠)	55	中世～近代
道路跡	1	中世
水田跡	4	平安～中世
土坑	235	中世～近代

### 出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	中世～近代 (内耳土器・墨書土器・陶磁器)
石器・石製品	縄文～弥生 (打製石鎌・磨石)、中世 (五輪塔)
金属製品	近世～近代 (不明鉄製品)
木製品	中世 (曲物・箱状木製品・漆器)
銭貨	中世～近世 (宋銭、寛永通宝等)

### 調査の概要

調査対象地区は、遺跡の東側から 1 区、2 区、3 区とした (図 22)。蓮田と呼ばれる低湿地は 2 区東側の一部から 1 区全域に広がっている。各調査区の調査面数は異なるが、最大 5 面を調査した。

各調査面の時期は、第 1 調査面が近代、第 2 調査面が近世、第 3・4 調査面が中世、第 5 調査面が古代となる。

**第 1 調査面** 3 区のみで近代の窯関連の工房跡を検出した。

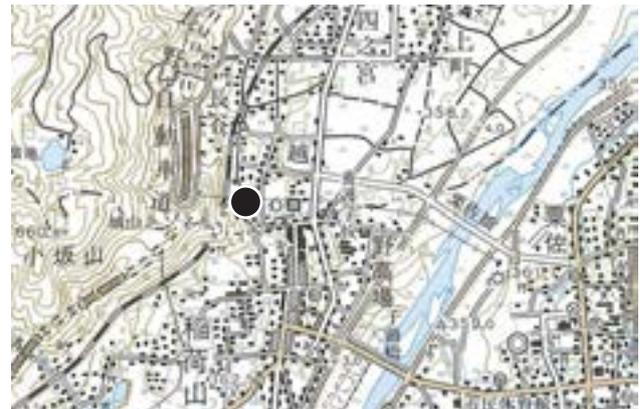


図 21 長谷鶴前遺跡群の位置 (1:50,000 長野)



図 22 長谷鶴前遺跡群の調査地区

**第 2 調査面** 2 区のみで、竪穴建物跡、土坑、溝跡 (含暗渠) を検出した。

**第 3 調査面** 2 区・3 区で調査した。西側に連なる山からの大規模な崩落土に覆われ、この崩落土を利用した造成の後に遺構が掘り込まれていた。

この大規模な造成は、2 区北側で検出した居館の堀跡の南側まで行われたと考えられ、この造成土は、現在まで蓮田と呼ばれた 1 区の低湿地部分までは分布していない。他に道路跡、掘立柱建物跡などを検出した。

**第 4 調査面** 2 区・3 区で調査した。2 区では厚さ数 cm の黄褐色シルトに覆われた南北方向の水田跡を検出した。

**第 5 調査面** 1 区・2 区で洪水砂で埋没した水田跡を検出した。

### 長谷窯関連工房跡

長谷窯<sup>はせがま</sup>〈1867（慶応3）年から1896（明治29）年ごろまで操業〉推定地の東側に近接する3区では、工房跡と陶器製作の轆轤<sup>ろくろ</sup>の台石<sup>ろくろしんせき</sup>（轆轤心石）2点が設置された状態で見つかった。工房跡は、建物の北壁近くに石垣上の石列を配し、轆轤の台石の南側には建物の南壁があったものと考えられる。この轆轤の台石は、轆轤台を支えるためにそれぞれ92.6kg、69.9kgとかなり重量がある。全国



図23 3区の工房跡内の轆轤の台石（北東から）



図24 灯明具の蓋（左：素焼・中央：鉄釉）と土瓶の蓋



図25 様々な窯道具

的にも設置された当時の状態で発見された例は少なく、石川県加賀市の近世松山窯をあげる程度で、貴重な事例となった。また、工房跡周辺からは、窯関係の道具や陶器、焼き損じ品等が多数出土した。

遺物は、陶器の雑器、各種の粘土型、窯道具および窯の構築材としての煉瓦に大別される。現在までの観察では、陶器類は、素焼きと施釉のものが存在し、灯明具、搗鉢、甕等の焼き損じ品が多数出土した。また、食器類が少ない傾向にある。さらに、各用途別の粘土型も出土した。中には窯道具の円錐ピンを製作するための粘土型があり、注目される。

窯道具は、匣鉢<sup>こうぼち</sup>（さや）・焼台・輪トチ・円錐ピン等が出土している。円錐ピン以外の胎土には、生産されている陶器と異なり、粒子の粗い砂が多量に含まれている特徴がみられた。

### 中世の道路跡と居館の堀跡

2区南側に広がる造成土を南北方向に掘り込む2条溝跡を検出した。この溝跡に挟まれた幅約4mの部分は、他より硬化しており、側溝を伴う道路跡として捉えた。

道路跡は、断面観察から、それぞれほぼ同じ場所で2回造りかえられている状況が確認でき、また、道路跡北側では、幅約5m、深さ約1mの居館のL字状の大規模な堀跡を検出した。

居館の堀の埋没後、さらに、北側に道路跡が延長している様子も捉えることができた。



図26 中世の道路跡（北から）



図27 長谷鶴前遺跡群の調査地区全景(2区第3調査面)(南から)

今後は、2区南側に広がる大規模な造成と道路跡、さらに居館の堀跡と、遺跡西側の山に築かれた赤沢城との関わりも視野に入れながら、それぞれの遺構の関わりや性格を検討していきたい。

居館の堀跡と思われる溝跡の埋土からは、石製品(五輪塔)、箱状木製品、獣骨が出土した。



図29 2区の水田跡(南から)



図28 居館の堀跡(南から)

#### 平安時代の洪水砂に埋もれた水田跡

2区では、平安時代の洪水砂と想定される砂層が約60cm堆積しており、この砂層の直下から水田跡を検出した。2区北側で確認した、東西方向の畦畔は、幅約100～150cm、高さ約15～40cmを測る。

本遺跡に隣接する石川条里遺跡で確認された、畦畔の方向から推定した条里の区画を当てはめる

と、大畔の区画の中にある、<sup>はおり</sup>半折の畦畔である可能性が考えられる。

また、2区南側で確認した東西・南北方向の畦畔は、幅約60～100cm、高さ約10～30cmと2区北側の畦畔の規模より小規模であった。この畦畔には、数か所、水口部分が確認できた。この畦畔で形成される水田面積は、約150m<sup>2</sup>となる。また、田面の被覆状況は、場所によって異なり、薄く泥炭が堆積した場所と堆積がみられない場所があるなど、水田の利用頻度等を反映している可能性も考えられる。

木器などの遺物の出土はなかったが、水田跡の田面からは、9世紀後半の墨書土器が出土した。

(近藤尚義)

## (6) やまとりばいせき 山鳥場遺跡

県単道路改築事業（ゼロ県債）  
（一）御馬越塩尻（停）線

所在地および交通案内：東筑摩郡朝日村西洗馬  
1435-1 ほか。朝日村役場より東へ約 1.6km。県  
道 292 号から 298 号を経てスタービレッジ東側。  
遺跡の立地環境：鎖川右岸段丘上、内山沢の形成  
した扇状地先端部に位置する。標高 780m。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
2017.4.5 ~ 10.31	1,484m <sup>2</sup>	廣田和穂 費田 明 杉木有紗

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴建物跡	6 (14)	縄文中期後葉
土坑	26 (108)	縄文中～晩期

( ) 内は 2016 年度との合計数

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・土製品	縄文中～晩期（深鉢、鉢） 土偶（頭部、胴部、脚部）
石器・石製品	縄文（石鎌、凹石、磨石、石皿、打製石斧 磨製石斧、横刃形石器、剥片ほか）
その他	縄文（骨片、炭化物）

### 調査の概要

県道御馬越塩尻（停）線の建設に当たり、2016  
年度から調査を開始した。今年度は昨年度調査区  
の東側に接する③・④区を調査し、竪穴建物跡 6  
軒・土坑 26 基を検出した（図 31）。

基本土層は 3 層に分かれる。Ⅰ層は現耕土で灰  
褐色粘質土である。Ⅱ層が縄文時代の遺物包含層  
で礫を一定量含み、上下 2 層で構成される。Ⅱ層  
の上部（Ⅱ a 層）は土壌化が進んだ黒褐色粘質土、  
下部（Ⅱ b 層）が暗褐色系のシルト質土となる。  
Ⅲ層は黄褐色ローム層と旧内山沢の砂礫とが交互  
に堆積する。縄文時代の遺構はⅡ層中より掘り込  
まれると推測したが、Ⅱ層内におけるプランの色  
調差、土質差が不明瞭なためⅢ層上面で検出した。



図 30 山鳥場遺跡の位置（1:50,000 塩尻）



図 31 山鳥場遺跡調査区図

### 遺物包含層の調査

Ⅱ層では遺物包含層調査を実施した。遺物は  
8m 方眼のグリッド単位で取り上げることを基本  
とし、遺物集中範囲のみ 4m もしくは 1m の小グ  
リッド単位で取り上げた。その結果、遺物はⅡ a  
層からⅡ b 層上部に含まれ、縄文時代中期後葉  
を主体とするものの、後・晩期遺物も一定量含  
まれる点、中期～晩期までの遺物が層的に分離せ  
ず出土する点、遺物の分布範囲は④区南西部に多  
いことがわかった。

### 縄文時代中期後葉の集落

当該期の遺構数は、昨年度との合計で竪穴建物  
跡 14 軒、土坑 108 基となる。遺構の時期は、昨  
年度が中期後葉Ⅰ～Ⅱ期中心で、今年度はⅡ～Ⅲ  
期が中心となる。2 年間の調査成果を統合すると  
本遺跡の集落はⅠ～Ⅲ期にかけて変遷する。

遺構の分布状況を概観すると、②区東半から④  
区南西部にかけて集中する範囲が認められ、この  
範囲から東西両方向に離れると遺構数が減少す  
る。この点から集落の東限は④区東端、西限は②  
区西端と考えられる。

また④区の調査区南境では竪穴建物跡が 5 軒ま



図 32 竪穴建物跡検出状況

とまって検出され、集落が調査区外南方に広がると推測できる。一方、調査区の北半部は、遺構数も減り、集落が北方に広がる可能性は少ないと考える（図 31・32）。

### 竪穴建物跡について

形状は、円形状、方形状、五角形状に大きく分かれる。いずれも長軸が5m前後を測る。朝日村で過去に調査した熊久保遺跡では中期後葉に建物跡の形状が円形状から五角形状に変遷することが報告されている（参考文献1）。本遺跡では昨年度も同様の傾向が認められ、今年度の成果と合わせ、竪穴建物跡の形状変遷が検討課題である。

構造についてみると、床下から周溝の一部やピットが検出される事例があり、建て替えの可能性が推測できる。

埋甕は、昨年度検出されなかったが、今年度は13・14号竪穴建物跡の2軒で検出した。

炉は建物中央やや奥壁寄りに配置される。炉辺



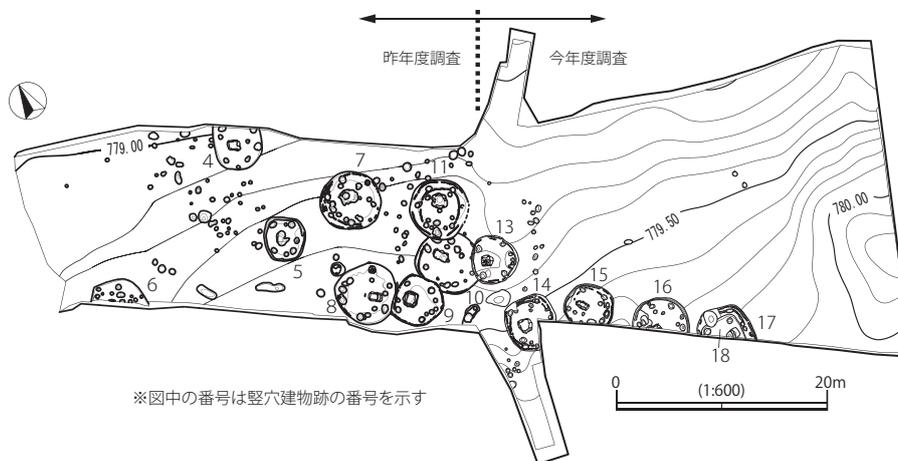
図 33 14号竪穴建物跡土器敷炉

石には砂岩系の石材を用い方形に配列する。使用する石の重さは20kg前後を測る。石囲炉は5軒で検出した。特に13・14・18号竪穴建物跡の3軒で炉底部に土器片が集中して敷かれた状況を確認した（図 33）。

3基とも炉辺石には被熱痕があるものの、炉内に灰や炭化物等の堆積は確認できず、底部に敷かれた土器片には被熱痕が認められなかった。一方、13・18号竪穴建物跡の炉では、敷かれた土器を外したところ、炉底に明瞭な被熱面が確認された。

### 出土遺物

土器は、胴部に腕骨文や蛇行懸垂文を施文する一群、胴部に大柄渦巻文を展開し器形に樽形を含む一群が主体となり、当地の編年における中期後葉Ⅱ～Ⅲ期に属すると考える（参考文献2）。特に注目されるのは13号竪穴建物跡から出土した埋甕で、松本平で特徴的な唐草文の間に曲線文様が施文される（口絵写真）。こうした曲線文様は



※図中の番号は竪穴建物跡の番号を示す

図 34 縄文時代中期後葉遺構配置図



図 35 縄文時代中期後葉土偶

下伊那系土器に散見することから、他地域の影響を示す資料の可能性があり、今後検討を要する。

土偶は頭部（図 35）、胴部、脚部等が出土した。胴部に沈線で施文された渦巻文や逆ハート形に張り出した臀部は、松本平における中期後葉の遺跡で出土している土偶に類似する。

石器は石鏃、凹石、石皿、打製石斧、磨製石斧、横刃形石器等が出土した。特に凹石、打製石斧、横刃形石器が多く、松本平西南山麓における当該期の遺跡で確認される石器組成と同様の傾向を示している。

#### 種実圧痕が認められる土器

2016 年度調査で出土した縄文中期後葉の唐草文土器を整理する過程で、胎土の中に種実圧痕のある土器を確認した。このうち 6 個体について、胎土中に残存する炭化種実 1 点および圧痕レプリ

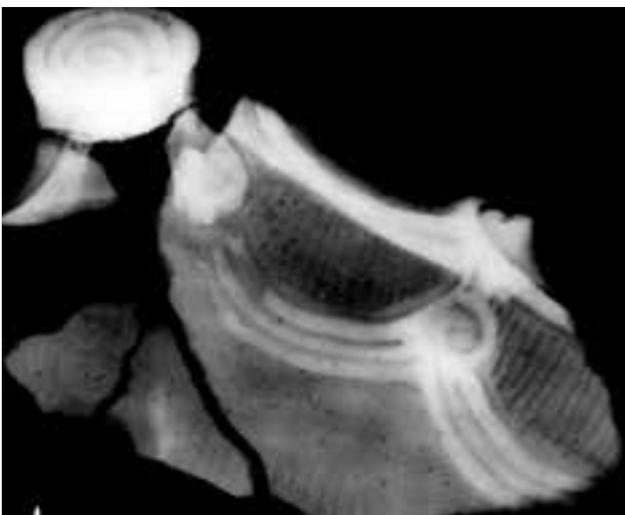


図 36 エゴマの圧痕が確認された土器（部分）  
長野県立歴史館の協力による X 線撮影

カ法で採取された種実圧痕レプリカ 9 点の同定を行った。

炭化種実 1 点と種実圧痕レプリカ 4 点は略完形 1 個体（図 36・37）から採取したもので、結果は 5 点すべてがエゴマであった（図 38）。この土器には、今回エゴマと同定されたものと同様の形状・大きさを示す圧痕が他に 876 点観察されている点から、さらに多くのエゴマが同定される可能性がある。他の圧痕レプリカ 5 点は、別の 5 個体の破片から各 1 点採取したもので、結果は 1 点がエゴマ、2 点がダイズ属、2 点がササゲ属アズキ亜属であった。縄文時代中期後葉のエゴマ、ダイズ属、ササゲ属アズキ亜属の同定事例としては、松本盆地では初例である。

今年度出土土器についても、引き続き種実圧痕の土器に注目していきたい。（廣田和穂）

参考文献 1 朝日村教委 2003『熊久保遺跡 10 次発掘調査報告書』  
2 長野県史刊行会 1988『長野県史 考古資料編 1(4)』



図 37 エゴマの圧痕が確認された土器（7 号竪穴建物跡）

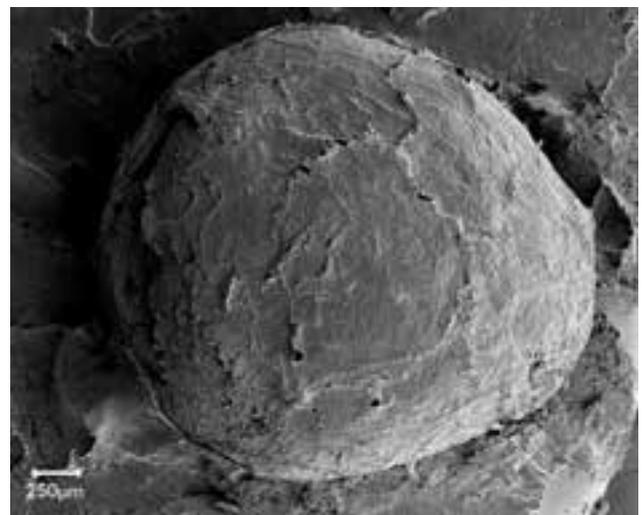


図 38 圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真（エゴマ）

# しもがわらいせき (7) 下川原遺跡

天竜川下久堅地区  
築堤護岸工事

所在地および交通案内：飯田市下久堅知久平。

中央自動車道飯田ICから東へ約7.0km。

遺跡の立地環境：天竜川左岸の低位段丘面上

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
2017.8.1～12.8	4,000m <sup>2</sup>	黒岩隆 藤原直人

検出遺構

遺構の種類	数	時期
土坑	24基	中近世

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器・土製品	縄文、平安（土師器、灰釉陶器）、中世（陶磁器、内耳土器）、近世（陶磁器）
石器	縄文（石鏃、打製石斧、石錘、台石、磨石）

## 調査の概要

今年度は昨年度の調査結果を踏まえ、微高地部では平安時代後期～中・近世の遺構検出、川寄りの低地部では洪水砂により埋没した水田等の調査を主な調査方針として作業を進めた。

天竜川に向かって東から西へのびる尾根状の微高地部では、石を伴う土坑10基、小土坑14基を確認した。石を伴う土坑からは中世の内耳土器、陶磁器片が出土している。土坑は、大きいもので長径2mを超える楕円形で、土坑内に集石や炭化物粒子がみられた。土坑内部で火を焚くような行為があった可能性も考えられる。今後、周辺地域の類例などを調べ、土坑の性格を検討したい。

調査区西側の天竜川寄りの低地部では、洪水により厚く砂が堆積していた。地表から深さ約4mまで堆積した砂を取り除き、畝を伴う畑跡を検出した。畑跡を覆う洪水砂からは、縄文時代の石器や中・近世の陶磁器の他にビニール片や丸釘なども出土したことから、畑跡は昭和期の洪水により埋もれたものと考えられる。（藤原直人）



図 39 下川原遺跡の位置(1:50,000 時又)

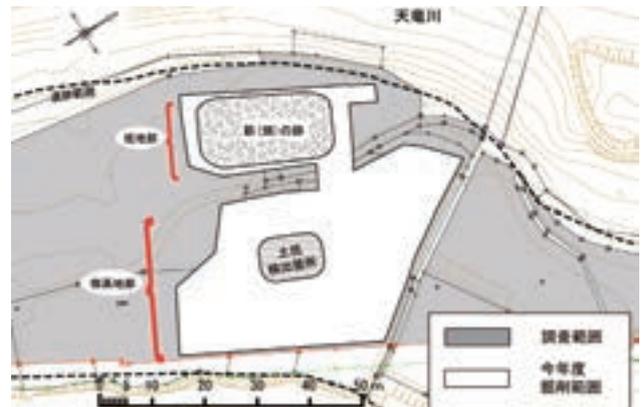


図 40 調査区全体（模式）図



図 41 石を並べた土坑



図 42 砂に埋もれていた畑跡

## (8) 飯田市の<sup>ま と ば い せ き</sup>的場遺跡ほか

JR 東海中央新幹線工事

リニア中央新幹線工事に伴う確認調査を3遺跡で実施した。

### 1 飯田市の場遺跡、西浦遺跡

所在地及び交通案内：飯田市上郷飯沼 2674-1

(的場遺跡)、飯田市上郷飯沼 2721-1(西浦遺跡)。

元善光寺より南東へ約 900m。的場遺跡の北東に隣接して西浦遺跡。

遺跡の立地環境：天竜川右岸の段丘上に位置する。

標高は的場遺跡が約 449～450m、西浦遺跡が約 448～449m。

#### 発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
2017.11.27～12.20	172.6m <sup>2</sup> (的場) 413.3m <sup>2</sup> (西浦)	贅田 明 杉木有紗

#### 検出遺構 (西浦遺跡)

遺構の種類	数	時期
溝跡	4条	近世?
土坑	3基	近世?

#### 出土遺物 (的場遺跡・西浦遺跡)

遺物の種類	時期・内容
陶磁器 (的場)	近世 (輪禿皿、仏飯器、播鉢ほか)
土器、陶磁器	縄文後期、近世 (かわらけ、内耳、播鉢)
石器 (西浦)	縄文 (打製石斧)

#### 調査の概要

的場遺跡では、遺跡範囲の北側境界付近にトレンチを設定した。現耕作土以下は客土で、客土下は砂礫層となり、深さ 1.8～2.2m で明黄褐色土を確認した。遺構は検出されず、遺物も客土からの出土であることから本調査の必要はない。しかし、地形的に一段高い調査地点の西側と、飯田市教育委員会が 1998 年に古墳時代の竪穴建物跡を検出している調査地点の東側については別途確認調査が必要と判断している。

西浦遺跡では、遺跡範囲の南側境界付近にトレンチを設定した。その結果、調査範囲の北側半分において、深さ 0.7m で粘性の強い黒色・褐色土



図 43 的場・西浦遺跡の位置 (1:50,000 時又)



図 44 阿島北遺跡の位置 (1:50,000 時又)

を掘り込む溝跡と土坑を検出した。溝跡はトレンチ幅を越えて周辺に広がるため、調査範囲の北側半分については本調査が必要と判断した。遺構の時期は判然としないが、周辺から出土した極少量の遺物から判断すれば近世の可能性もある。

### 2 喬木村阿島北遺跡

所在地及び交通案内：喬木村 265-1 ほか、喬木村役場の北東約 1.5km。

遺跡の立地環境：

天竜川左岸の段丘上に位置する。標高約 410m。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
2017.11.27～12.20	413.36m <sup>2</sup>	贅田 明 杉木有紗

#### 調査の概要

阿島北遺跡では遺跡範囲の南側境界付近にトレンチを設定した。表土以下は客土となり、客土下は深さ 1.0～2.5m でグライ化した黒褐色土が堆積し、黒褐色土の下部で砂礫層を確認した。遺構は検出されず、遺物も出土しない。このことから周辺の本調査は不要と考えるが、調査地点より東側の標高が高く、地形的に今回とは異なる状況が予想される一帯は、さらに確認調査が必要と判断している。(贅田 明)

### Ⅲ 整理等作業の概要

遺跡名	所在地	事業名	整理等の内容	整理中の主な成果
ひんご遺跡 いんせき	栄村	社会資本整備 総合交付金 (広域連携) 事業 (一) 箕作飯山線	遺構図修正 デジタル トレース 遺物整理・ 実測・トレース・ 写真撮影 原稿執筆、報告書編 集	縄文時代中期中葉から後期中葉を中心とする集落跡であり、 竪穴建物跡と掘立柱建物跡の両者が存在するのは信越 境界地域の集落の特徴となろう。後期の土器にも胎土や文 様に特徴的なものがみられ、独自の土器群が抽出できる可 能性もある。
しおぎいせきぐん 塩崎遺跡群	長野市	一般国道 18 号 (坂城更埴バイパ ス) 改築工事	遺物の洗浄・注記 人骨・動物骨の鑑定 図面修正・デジタル トレース 石器実測 金属製品の保存処理	鉄製品については、弥生時代後期頃には簡単な鉄加工が遺 跡内で行われていた可能性が出てきた。また、棒状鉄製品 について応急保存処理を行った結果、鉄剣であることが判 明した。
あさかわせんじょうち いせきぐん 浅川扇状地遺跡群	長野市	社会資本整備 総合交付金 (街路) 事業 (都) 高田若槻線	2011～2015 年度ま での調査資料の整理 図面修正・遺物の実 測作業 金属製品の保存処理	古代では、現在までに竪穴建物跡 143 軒が確認されており、 8～9 世紀に営まれた集落は、9 世紀に最盛期を迎えるこ とを捉えた。また、竪穴建物跡の埋土から出土した銭貨に ついては、応急保存処理を行った結果、和同開珎であるこ とが判明した。発掘調査で発見された和同開珎としては長 野市内では初めてとなる。
さくしちけいせき 佐久市地家遺跡ほか	佐久市	中部横断自動車道 建設事業	佐久南 IC～八千穂 IC 間 31 箇所の記録類・ 調査所見・遺物の整 理 遺構図修正、デジタ ルトレース 遺物接合・ 復元・実測	地家遺跡では、板碑片が約 50kg 出土しており、うち全体 形がわかる 2 点については未完成板碑であることがわかっ た。詳細は本文を参照。
いでがわみないせき 出川南遺跡	松本市	防災・安全交付金 (街路) 事業 (都) 出川双葉線	遺構図修正、デジタ ルトレース、遺物整 理・実測・トレース・ 写真撮影 原稿執筆、報告書編 集・刊行	出土土器は、古墳時代前期から中期のものが主体である。 特に前期の土器には「東海系」のうちでも、西三河など複 数の系統を選択的に取り入れたことが想定される。
かわらいせき 川原遺跡	飯田市	天竜川下久堅地区 築堤護岸工事	遺構図修正、デジタ ルトレース、図版レ イアウト 遺物整理・接合・復 元	調査でみつかった竪穴建物跡は縄文時代中期後葉から後期 中葉に位置付けられる。また、中期後葉～後期中葉には石 器製作にかかわる石器類の集中も明らかとなってきた。

## (1) ひんご遺跡

社会資本整備総合交付金（広域連携）事業

### (一) 箕作飯山線

#### 整理対象の概要

遺跡発掘は2015・2016年に1,817m<sup>2</sup>の調査を実施し、縄文時代中・後期の竪穴建物・敷石住居跡28軒他の遺構と、テンバコ約260箱の遺物が出土した。本格整理は昨年度開始した。今年度は遺構図の整理、土器の復元と遺物全般の選別・集計、実測・写真撮影、種実・動物骨・黒曜石分析、年代測定等の委託、遺構・遺物図版および原稿・表の作成を行った。

#### 遺構の内容

調査区は、千曲川に平行して東西方向に長い、段丘上の微高地に広がる遺跡の長軸を通っている。土器の時期は縄文早期から後期後半にわたるが、圧倒的に多量な時期は中期中葉から後期中葉であり、集落の存続期と推定される。竪穴建物跡22軒は中期後葉1軒のほか、敷石住居跡6軒とともに後期前半に帰属する。掘立柱建物跡は発掘時に数軒が確認されたが、図面上では7軒が推定される。主に調査区北側の平坦部に分布し、円形・長方形プランもある。縄文後期には新潟県には竪穴建物は少なく、掘立柱建物跡のみで構成される遺跡もあり、両者の存在は信越境界地域の集落の特徴となろう。明らかな墓跡は堀之内2式期の配石墓1基しかなかった。遺物包含層上部には、廃棄されたと思われる多量の炭化物や焼土が、長径2～3m程度の範囲に集中する部分が多く見られる。水洗した結果多量のトチなどが検出された。

#### 縄文土器の様相

中期中葉から後期初頭まで、新潟県に分布する馬高式、栃倉式、沖ノ原Ⅰ・Ⅱ式、三十稲場式が主で、長野県側から伝わった加曾利EⅢ・Ⅳ式、称名寺式を伴う。後期前葉の南三十稲場式期には、長野県の地域的特徴をもった堀之内1・2式が主体的となり、折衷や模倣によって変容するものも多い。堀之内2式後半期には石神類型が有文土器の多数を占め、同種の文様で飾った蓋形土器の多さは他遺跡には認められない。後期前葉から集落が終焉を迎える加曾利BⅠ式期にかけて、極めて軽量・白色の胎土を用いた、ひんご遺跡独特の土器が現れる。有文・無文土器ともこの胎土が用いられ、文様も特徴的である。この種の土器を含めて、ひんご遺跡を冠した土器群を抽出できる可能性がある。ミニチュア土器は63点、土偶は29点を数える。

#### 石器の組成

主要な器種には石鏃204点、削器・搔器272点、石錐93点、打製石斧241点、磨製石斧74点、凹石116点、磨石87点、石皿23点等がある。打製石斧には、新潟県に分布する、断面を台形に加工し裏面を剥離面のままにするタイプが33点含まれる。石鏃にも黒曜石・チャートは約4割と少数であり、剥片石器の多くは無斑晶質安山岩が石材であった。千曲川本流に面する遺跡では、漁具の可能性のある石器はきわめて少ないが、土壌試料の水洗によって焼けた魚骨が検出されている。しかし動物骨も検出されており、生業については分析成果を総合して考察したい。石製品には装身具8点、石棒8点のほか、浅間山麓を離れた地域での軽石製品149点が目を引く。（綿田弘実）



図45 ひんご遺跡の縄文後期前葉後半期有文土器

## (2) 塩崎遺跡群

一般国道 18 号（坂城更埴バイパス）改築工事

### 整理対象の概要

塩崎遺跡群は、千曲川左岸の自然堤防上に立地する弥生時代～中世の複合集落遺跡で、これまでも長野市教育委員会による発掘調査がいくつか行われている。長野県埋蔵文化財センター（以下、「埋文センター」という。）では一般国道 18 号（坂城更埴バイパス）改築工事に伴う発掘調査を 2013 年度から着手し、下表や図 46 のように数多くの遺構が検出された。整理作業は昨年度から着手しており、本年度は整理作業の 2 年目となる。

遺構の種類	総数	時期
竪穴建物跡	471	弥生中期～平安
溝跡	98	弥生～奈良
墓跡	93	弥生前期末～平安
土坑	2,296	弥生前期末～中世
井戸跡	92	弥生中期～中世

検出遺構数（今年度までの遺構合計数）

本年度の整理作業では、本遺跡を特徴づける弥生時代中期中葉頃の木棺墓、さらに先行時期と思われる円形貯蔵穴、土器棺再葬墓、弥生時代～中世の井戸跡、弥生時代中期後半の長方形土坑、1 区の竪穴建物跡を中心に 2 次原図作成、デジタルトレース、遺構図版作成を行った。出土遺物は、骨類の洗浄と鑑定指導、金属製品の応急的な保存

処理と整理指導、石器・石製品の整理と実測委託を行い、土器・土製品は洗浄・注記と一部の遺構出土のもの分類・接合を行った。

### 金属製品

これまでの調査で出土した金属製品は 520 点ある。銹化の進んだものが多く、本年は特に重要と思われる鉄製品 41 点の錆落としを行った。

これに先立ち、村上恭通氏（愛媛大学教授）に鉄製品の整理指導を受けた。出土鉄製品のなかで、いくつか不整形な小鉄片が認められているが、これらは融着の技術がなかった弥生時代に切断加工で排出された鉄片で、これらを穿孔具や小型利器として再使用している可能性が指摘された。

また、古代の鉄製品には刀子や紡錘車が多く、埋文センターで調査・報告した佐久市西近津遺跡群のあり方に近いが、刀子は刃部形状や目釘穴の有無で違いがあること、古代遺構出土鉄滓は鍛練鍛冶滓とみられるものがほとんどであることなどの指摘を受けた。

長野県では中野市南大原遺跡で弥生時代中期後半に簡単な鍛冶が行われた可能性が指摘されている。本遺跡では定形的な位置の炉とは別にもうひとつの炉をもつ弥生時代後期の竪穴建物跡がいくつか認められている。切断片と推定される鉄片の出土や、これらの遺構から弥生時代後期頃に簡単な鉄加工が行われていた可能性がでてきた。

これらの鉄加工は切断用の鉄製楔と礫石器で行

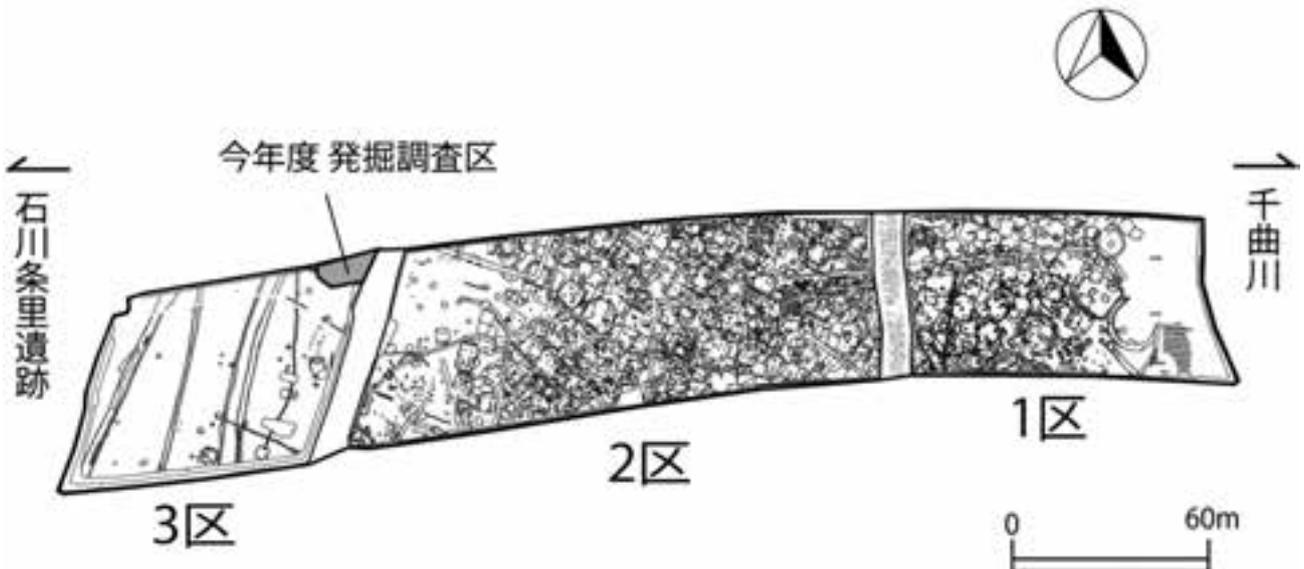


図 46 塩崎遺跡群遺構全体図

われたと考えられ、今後、石器の整理でも砥石や被熱痕のある敲石・台石にも注意していきたい。

また、鑑定中に朝鮮半島製の板状鉄斧を切断・再加工した鉄斧（図 47）も発見され、今回の応急的保存処理に加えることができた。板状鉄斧は奈良時代の竪穴建物跡出土だが、重複する弥生時代後期の竪穴建物跡から混入した可能性がある。さらに、すでに埋文センター年報 32（2015）で紹介した SK3570 出土の鉄剣と思われた棒状鉄製品は錆落としの結果、鉄剣と確認された（図 48）。

#### 人骨・動物骨

茂原信生（京都大学名誉教授）、櫻井秀雄（獨協医科大学）、本郷一美（総合研究大学院大学）の各氏に、出土骨の種類、部位等の鑑定とクリーニング法の指導を受けた。

今回の指導で、出土骨 2159 点のほぼ 9 割の種類・部位等の一次鑑定が終了し、一部の人骨については所見も得た。これまでに鑑定が終了した骨の内訳は、獣骨 800 点、人骨 346 点、魚骨 2 点と不明 824 点である（12 月末現在）。獣骨はシカ・イノシシ・ウマ等があり、シカ・イノシシは多く、ウマは少ない。次年度以後も引き続き鑑定指導を依頼する予定である。

#### 石器・土器

土器整理は土器洗浄と注記、一部の分類と接合を行った。土器の接合・分類は 1 区の竪穴建物跡の重複関係で新しい遺構から着手したが、弥生時代中期中葉以前の土器が混在している状況が確認できた。塩崎遺跡群では、これまでに長野市教育



図 47 2015 年度調査 SB2130 出土板状鉄斧

委員会による調査でも弥生時代中期中葉のまとまった土器資料が発見されており、今回の調査で新たな資料が加えられた。これらの土器は、長野県北部ではあまり類例が知られていない当該期の土器様相を明らかにしてくれる資料として注目される。

石器整理では 1 区遺構出土石器を器種別に分類・選別し、一部実測を行った。本遺跡周辺では篠ノ井遺跡群で多くの石器が報告されているが、遺構重複が著しいため弥生時代中期に特定できる石器は少ない。本遺跡も弥生後期以降の遺構への混入も多いながら、弥生時代中期の遺構から出土した土器が捉えられており、その出土状況を整理することで弥生時代中期の石器様相が捉えられる可能性がある。（市川隆之）



図 48 2015 年度調査 SK3570 出土鉄剣

### (3) 浅川扇状地遺跡群

社会資本整備総合交付金（街路）事業  
（都）高田若槻線

#### 整理対象の概要

浅川扇状地遺跡群は2011年度から発掘調査を実施している。昨年度までに検出した遺構は下表のとおりである。

遺構 時期	竪穴 建物跡	掘立柱 建物跡	墓	溝跡	土坑
弥生時代後期	24	0	1	1	32
古墳時代	39	0	5	16	126
奈良・平安時代	143	1	1	30	720
中世以降	0	4	6	28	473
合計	206	5	13	75	1351

今年度は、一昨年度までに発掘調査の終了している部分について本格整理作業を行った。遺構記録についての主な作業は、遺構の一覧表作成、掘立柱建物跡等、遺構の事実記載原稿作成などを行った。遺物についての主な作業は、古墳時代から近世の土器や石製品・金属製品の観察・選別・実測・一覧表作成・弥生～古墳時代土器の事実記載原稿作成などを行った。また、県立歴史館において、金属製品の応急的な保存処理作業も実施した。以下に、今年度整理作業により判明した、奈良・平安時代の集落の変遷などについて概要を記す。

#### 奈良・平安時代の集落跡

確認された奈良・平安時代の竪穴建物跡は143軒であるが、そのうち土器の観察により明確な時期が分かったものは72軒である。そこから、調査地に古代の集落が営まれていたのは、8世紀から9世紀の約200年間であると考えられる。

調査地内に古代の集落が最初に現れるのは8世紀前半で、1・2区に建物跡が5軒と狭い範囲にまばらに存在する程度である。8世紀後半になると、建物跡は15軒と増え、範囲も北側の5区にまで広がっていく。9世紀前半は建物跡が27軒と最大になり、範囲も1～3・5区の広範囲に広がり、最盛期を迎えたことが窺える。9世紀後半の建物跡は25軒で数的には前半期とあまり変わりはないが、北側の5区からは該期の遺構の検出はなく、建物跡は南側の1～3区に限られ、集落

の規模は縮小してしまう。そして、それ以降の建物跡は検出されていないことから、9世紀に最盛期を迎えた集落は、10世紀以降調査地内から移動してしまい、次に遺構が認められるのは中世(13世紀頃)となる。

#### 和同開珎の発見

今年度、県立歴史館で行った金属製品の保存処理によって、2012年度に竪穴建物跡(SB5023)の埋土から出土した銭貨が、和同開珎であることが判明した。

和同開珎の発見は、県内で24例目となるが、長野市内の発掘調査では初めてである。全国に流通した初めての日本製貨幣とされている和同開珎は、県内では、飯田市・塩尻市・上田市・佐久市など東山道沿いの遺跡やその周辺からの出土が多く報告されており、あるいは役人が官道を移動する際に使用して広まったのかもしれない。今回、和同開珎が平安時代の竪穴建物跡の埋土から出土したことは、調査地周辺の官道や、官衙との関係を考える上で重要である。

調査地からは、これまでに古代の遺物として、身分の高い役人の持ち物とされている筆立て付円面硯や、役人の装束に付けられていた銅製の帯金具、高級な食器として使われていた緑釉陶器など、一般的な集落ではあまり見られない遺物がいくつか出土しており、それらの遺物と併せて、集落の性格や周辺地域との交流、調査地付近に官衙や官道が存在する可能性も考えていきたい。

(西 香子)



図49 和同開珎の拓本



#### (4) 佐久市地家遺跡ほか 中部横断自動車道建設事業

##### 整理対象の概要

昨年度から本格的に整理作業を実施している。遺物は報告書に掲載する遺物の抽出、土器の接合と復元、土器・板碑・木製品の実測作業を進め、遺構は、図修正とデジタルトレースを継続している。出土骨鑑定と木製品整理について指導者を招へいし、業務委託により樹種・種実同定を実施した。以下、本年度の成果の一端を紹介する。

##### 地家遺跡の板碑

発掘では総重量約 50.2kg の板碑片が出土した。本年度はその接合、実測・拓本作業を実施した。出土した板碑のほとんどは破片で、接合率も悪く、全体形がわかる個体は 2 点のみである。

板碑の石材は結晶片岩で、色調は緑色系と灰色系に分けられる。緑色系が圧倒的に多く、なかでも、曹長石の結晶が多く生じた点紋緑泥（石）片岩が大部分を占める。

大きさについては、体部の両側縁が残り、幅がわかるものが 13 点あり、幅 30cm 前後の大型 3 点と幅 22cm 以下の小型 10 点の 2 群に分かれる。

形態については、頭部が左右両端まで残る 5 点は、いずれも二等辺三角形の山形を呈するが、二条線や額を明確に刻出したものは認められず、羽刻みをもつものもない。横断面形は、確認できるものは正面が広く背面が狭い逆台形で、舟底形と呼び得る形状のものはみられない。成形・調整技法については、正面・背面の凹凸を均す押し削り技法が 4 点に認められる。側面は正面側からの敲きが施されている。磨き調整は 1 点を除いて明瞭には観察されない。

種子しゅじが確認されるものは 6 点ある。キリーク 1 字のみ刻むもの 3 点、キリーク・サ・サク 3 字を刻むもの 1 点、刻書キリークの右下と左下に字刻は認められないが漆・金箔が付着しており、三尊形式の可能性あるもの 1 点がある。残る 1 点は刻

書キリーク部分の破片で、一尊か三尊か判断がつかない。

次に、全体形をとどめる 2 点の板碑について触れる。小型 1 点と大型 1 点である。

##### 板碑① (図 54)

全長 47.6cm、最大幅 18.5cm、最大厚 1.9cm、重さ 3,264g を測る。石材は点紋緑泥片岩である。頭部は山形で、頂角 129 度、二条線等の装飾は作出されていない。背面には下端幅 1.1cm の横方向の押し削り痕が多く残っている。板碑長軸に対してやや斜交する例が多い。押し削り痕は基部正面側にもみられる。断面形は、正面が広く背面が狭い逆台形を呈する。

体部上部には種子キリークが彫刻されている。彫り面の断面形は浅い V 字状～U 字状を呈する。種子のほかに彫刻は確認されないが、種子下端から 12cm 下に、漆で描いたと思われる暗褐色の横位線が 1cm の間隔で上下 2 列に残っている。



図 54 板碑① 左：正面 右：背面

##### 板碑② (図 55)

全長 89.3cm、最大幅 29.2cm、最大厚 2.7cm、重さ 14,540g を測る。石材は点紋緑泥片岩である。頭部は山形で頂角 130 度である。側面は、敲き調整の後に施された磨きが、頭部上端と体部側面に観察される。背面には下端幅 0.7cm の横方向の押し削り痕がみられる。断面形は正面が広く背面が狭い逆台形を呈する。

体部上部には蓮座を伴う阿弥陀三尊種字が彫刻され、下部には紀年銘が刻まれている。種子キリーク、サ、サクの彫り面の断面形はV字状を呈する。種字の彫り面には漆と思われる暗褐色膜状物質が付着している。彫りの浅いサ・サクは殆ど残っていないが、深いキリークは比較的残りが良い。紀年銘については、現状、中央に「□□二年三月」、その右に「己」、左に「卯」、年号□□の文字は「厂」あるいは「广」を含むと考えている。この判読が正しければ、13～16世紀では、暦應二年(1339年)が該当する。

頭部三角形の直下には7本の横位のケガキ線が残る。山形の作出、二条線や額の彫刻のためのものと考えられるが、二条線や額の彫刻はなされていない。種子部分にもケガキ線がみられる。梵字・蓮座各部の端や中心を通る横位線が8本以上確認され、種子の配置・割付けに関わるものと考えられる。また、梵字外形線(輪郭線)がキリークの一部に残っている。これらの残存するケガキ線は、形態作出や種子刻字の方法・工程等についての情報を提供してくれる。



図 55 板碑②

本板碑は、ケガキ線を引きながらも、現実には二条線や額の彫刻を行っていないことに示されるように、意匠表出や調整が完了していない未完成板碑といえる。未完成品であっても、当地に運び込まれて造立された。本板碑は、武蔵型板碑の分布周縁域における、板碑の流通と使用の実態を考察する上で重要な資料となろう。

#### 地家遺跡の木製品(図 56)

鳴鏑と推定される木製品がある。橐形に加工され、上下方向に矢の茎を通すとみられる孔が貫通し、中空である。また、側面上方には5個の方形の小孔(目)が穿たれ、射たときに空気が入って音を発する仕組みとなっている。表面にはところどころ黒色の付着物が残存しているため、当初は漆が塗られていた可能性が高い。

鏑矢は狩猟や軍陣での合戦開始の合図等に用いられたが、儀式の際に結界等のために矢を放つ儀礼に使われたとも考えられ、本遺跡での用途が注目される。佐久市榛名平遺跡でも中世の鳴鏑が出土している。(若林 卓、水澤教子)

#### 参考文献

- 千々和到・浅野晴樹編 2016『板碑の考古学』高志書院
- 高橋好信ほか 2014『下里・青山板碑石材採掘遺跡群一割谷採掘遺跡一』埼玉県比企郡小川町教育委員会
- 田中琢・佐原真編 2002『日本考古学辞典』三省堂
- 小野正敏ほか編 2007『歴史考古学大辞典』吉川弘文館



図 56 鳴鏑(高さ 7.2cm、最大幅 4.2cm)

## (5) 出川南遺跡

防災・安全交付金（街路）事業  
（都）出川双葉線

### 整理対象の概要

出川南遺跡は松本市宮田踏切の立体交差化事業に先立ち、2013年度に松本市によって調査が開始された。翌2014年度より埋文センターが発掘調査を引き継ぎ、2016年度に終了した。古墳時代の竪穴建物跡7軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡3条、平安時代の竪穴建物跡2軒、中・近世の竪穴付掘立柱建物跡1棟、溝跡24条、土坑20基、小溝108条等が発見されている。

今年度は本格整理作業（遺構図編集、デジタルトレース、遺物選別・実測・写真撮影、各種計測台帳の作成、原稿執筆、報告書作成）を行った。

以下、整理作業で得られた所見を記す。

### 遺構の帰属時期について

2013年度調査では基本層序を捉えることが困難であり、同一面で古墳前期から中世までの遺構を調査したが、遺構の構造が不明なものも多かった。一方、調査範囲が狭小なため調査区壁面で遺構の立ち上がり捉えられることも多かった。そのため、調査区壁面の土層図を積極的に使用することによって、遺構の帰属時期を把握した。

### 出川南遺跡の古墳時代土器

出川南遺跡で出土した土器は、古墳時代前期から中期にかけてのものを中心とし、特に618号住居跡（竪穴建物跡）では受口状口縁台付甕が土器の主体を占めている。古墳時代前期の土器は東海地方西部、特に西三河の影響を強く受けているが、その土器様相をそのまま受容したわけではなく、西三河では主体でない土器や、複数の系統を想定できる土器などを選択的に取り入れたものと想定される。出川南遺跡など<sup>かのりがわ</sup>中信地域の土器は、弘法山古墳を念頭に愛知県の鹿乗川流域を中心とした「東海系」の影響を受けていると言われてきたが、その具体的な様相の一端が明らかになった。

### 出川南遺跡の集落域について

出川南遺跡の東約1.4kmに弘法山古墳が所在



図 57 612号住居跡（竪穴建物跡）Pit7 出土土器

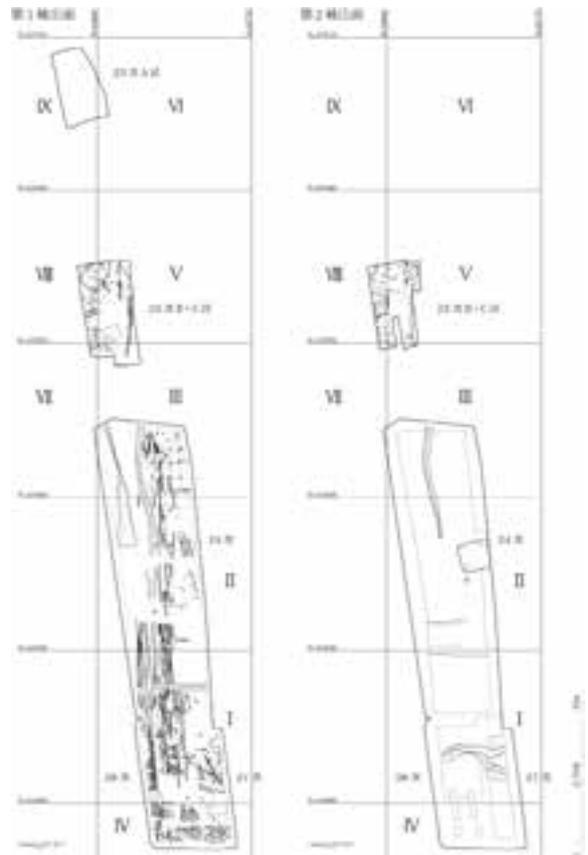


図 58 出川南遺跡遺構全体図

するが、今回の調査でほぼ同時期の集落が見つかった。また、遺跡の中央を流れる穴田川（田川の支流）を境に東が弥生時代～古墳時代前期、北西が古墳時代後期、南西が古代と時期によって集落の中心域が異なることが確認されたが、この様相は田川流域全体の遺跡の動向と連動していると思われる。

### 報告書刊行

3月に報告書を刊行し、その後調査資料や遺物は松本市教育委員会へ移管される。（片山祐介）

## (6) 川原遺跡

天竜川下久堅地区築堤護岸工事

### 整理対象の概要

昨年度に、1,705m<sup>2</sup>の発掘作業を実施した。検出した遺構は縄文時代中期後葉～後期中葉の竪穴建物跡10軒、土坑11基（うち1基は近世）、石器類の集中1基である。出土遺物はテンバコに26箱分である。

今年度は本格的な整理作業を実施し、遺構図・土層図の修正、編集、デジタルトレース、図版仮レイアウト等を行った。遺物は、遺構内出土土器の時期検討、分類、接合・補強・復元を行った。石器、剥片類は、分類、接合を進めた。一部、遺構の原稿執筆、土器の実測等も実施した。

### 土器および建物跡の時期

検出された竪穴建物跡出土の土器を観察した結果、SB05・07・08の3軒は縄文時代中期後葉、SB01・02の2軒が後期初頭、SB06・09の2軒が後期前葉、SB03・04の2軒は後期中葉、SB10が中期後葉～後期前葉の時期であると考えられる。

土器は、ほとんどが破片資料であるが、時期や型式が不明なものもあり、東海や近畿地方に起源を持つ土器の存在も指摘できそうで、周辺地域の類似資料との比較を行い、当遺跡の土器様相をできる限り明らかにしたい。

### 石器の様相

竪穴建物跡を中心として遺構内外からは、石器・石片類の出土が目立った。砂岩や緑色岩製敲石、花崗岩・砂岩製台石等の道具類、緑色片岩製磨製石斧等の未成品と一緒に緑色岩・砂岩の石核、剥片も出土している。

遺跡は天竜川に面し、そこで採取した石材で石器製作を行っていた可能性を考えている。今後、石器の器種分類、石材の分析を進め、当遺跡内における石器製作のあり様をまとめたい。

### 遺構の状況

発掘作業で集石（SH01）と認識していた遺構は、整理作業を進めるなかで、敲石、台石、緑色

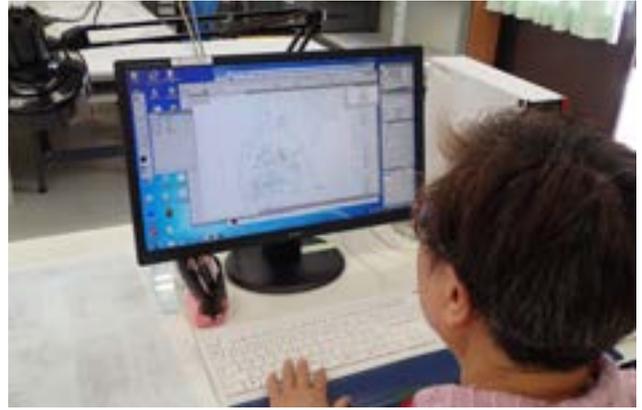


図59 遺構図デジタルトレースの様子

岩・砂岩等の石片類が多くを占めることがわかった。また分布範囲についても、空中写真、遺物の出土位置・標高を再確認したところ、1.5m南側に位置する竪穴建物跡（SB07・08）の埋土上層まで広がっていた。ちなみに、西側は後世の洪水の影響で失われている。このことから、この遺構は、縄文時代中期後葉～後期中葉まで断続的に続く石器類の集中箇所として認識した。

このあり様は、出土石器類の様相を考慮すると、石器製作に関わる廃棄場所の可能性も推測できる。今後、竪穴建物跡等から出土した石片類の量的な把握、道具類との相伴関係等の分析を進め、集落内でのあり方を検討したい。

飯田市域での縄文時代後期の集落跡の調査例は、酒屋前遺跡をはじめとして数例と少ない。来年度は、検出した竪穴建物跡の機能を検討し、周辺隣接地域の様相、他地域との交流も踏まえ、天竜川に面した縄文集落の一形態を明示できればと考えている。（黒岩 隆）



図60 石器類の集中（SH01）の広がり（遺跡の微高地部分の空中写真南側を拡大：写真上側を天竜川が右から左に流れる）

## IV 普及公開活動の概要

### 普及公開活動

	分類	名称	場所	期日	参加者数(名)	
①	施設公開	考古学チャレンジ教室	センター	7/28～29	228	
②	現地説明会		小島・柳原遺跡群	6/28	23	
			小島・柳原遺跡群	7/7	18	
			小島・柳原遺跡群	7/8	114	
			山鳥場遺跡	9/2	136	
			柳沢遺跡	9/14～15	36	
			長谷鶴前遺跡群	9/30	100	
			小島・柳原遺跡群	10/10	26	
			小島・柳原遺跡群	10/20	53	
			小島・柳原遺跡群	11/9	22	
③	速報展	長野県の遺跡発掘 2016	県立歴史館	3/12～6/26	11,826	
		長野県の遺跡発掘 2017	県立歴史館	3/18～6/25	12,066	
		長野県の遺跡発掘 2017	県伊那文化会館	7/29～8/20	1,146	
		長野県の遺跡発掘 2017	安曇野市豊科博物館	8/26～9/24	944	
		長野県の遺跡発掘 2017	浅間縄文ミュージアム	9/30～11/26	955	
		柳原地区文化祭	長野市柳原公民館	11/5	—	
		長野県庁ロビー展	長野県庁	11/13～11/24	—	
		合庁ロビー展	県北信合同庁舎	12/4～15	—	
		合庁ロビー展	県松本合同庁舎	1/29～2/2	—	
④	講演会等	掘るしん in 中野	中野市中央公民館	H30.3/3～4	—	
		同講演会(弥生時代)	中野市中央公民館	H30.3/3～4	176	
⑤	出前授業・講座	縄文と弥生	松本市立波田小学校	4/27	141	
		銅鐸と銅戈	長野市立篠ノ井東中学校	7/7	39	
		銅鐸と銅戈	中野市立倭小学校	7/11	27	
		長野県埋蔵文化財センターの仕事	長野県小諸高等学校	10/11	22	
		縄文土器	長野市立信更小学校	11/22	11	
	発掘体験	中野市立豊井小学校	柳沢遺跡	7/10	11	
		中野市立倭小学校	柳沢遺跡	7/12	15	
		松本市・山形村・朝日村組合立鉢盛中学校	山鳥場遺跡	8/21	2	
		長野市立篠ノ井西中学校	センター、石川条里遺跡ほか	7/4～5	4	
	職場体験	長野市立三陽中学校	センター、小島・柳原遺跡群	7/5～7	3	
		長野市立川中島中学校	センター、石川条里遺跡ほか	7/10～11	5	
		長野市立広徳中学校	センター、石川条里遺跡ほか	7/20～21	1	
		長野市立大岡中学校	センター、石川条里遺跡ほか	10/26～27	1	
		長野県小諸高等学校	センター、石川条里遺跡	10/17	22	
		国立長野工業高等専門学校	センター、小島・柳原遺跡群	8/21～9/4	1	
	⑥	施設利用		展示室		357
				図書室		46

総計 16,751  
国補対象計 1,529

※上記の内、太字の普及公開活動は、文化庁の国補事業「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を活用して実施した。

## (1) 施設公開

夏休み考古学チャレンジ教室 2017 の開催

実施日：7月28日（金）午後1時～4時

7月29日（土）午前9時～午後3時

### 目的：

夏休みの期間中に図書室や展示室などの施設を広く一般公開し、併せて整理作業の一部を親子で体験してもらうことで、埋文センターの業務内容と埋蔵文化財に対する理解や保護思想の啓発を図る。

### 内容：

- ・最新の発掘調査に伴う出土品の展示
- ・発掘調査報告書の活用と埋蔵文化財に関わる夏休み自由研究のアドバイス
- ・整理作業の体験…土器の洗浄・接合・拓本、埋文スコープを使用した遺物の実測、顕微鏡を用いた遺物の観察、石膏の型取り、ロットリングペンを使用した実測図のトレース
- ・整理作業の見学…土器の復元、3次元計測器

を使用した土器の実測、獣骨のクリーニング、実測図のデジタルトレース

来場者数： 228名

[28日（金）96名、29日（土）132名]

長野市内の小学生以下の子供達とその保護者が多数来場し、報告書作成作業の一部や、出土したばかりの土器など本物の遺物に触れる体験を通じて、埋文センターの業務や埋蔵文化財に対する理解を深めた。

特に、土器洗浄・埋文スコープを使用した遺物実測・ロットリングペンを使用した実測図のトレースなど、埋文センターの専門的な仕事を体験することで、それぞれの作業が、熟練を要する「職人技」であることを実感する人も多かった。

また、「子供たちが本物に触れる事ができる場所があり嬉しかった。」「土器復元が大変だと感じた。」など、たくさんの感想も寄せられた。

（西 香子）



図 61 土器の洗浄体験の様子



図 63 土器の接合体験の様子



図 62 実測図のトレース体験の様子



図 64 土器の拓本体験の様子

## (2) 講演会等

### ○掘るしん in 中野 (3/3,4)

内 容：中野市柳沢遺跡発掘調査報告書刊行5周年記念展示会を開催。柳沢遺跡、南大原遺跡、琵琶島遺跡、川久保遺跡の出土遺物とパネルを展示・公開。

#### ア 報告「中野の弥生文化と地域間交流」

「柳沢遺跡の調査成果」

鶴田典昭（埋文センター）

「銅戈・銅鐸の作り方－レプリカ製作過程－」

廣田和穂（埋文センター）

#### イ 記念講演

「銅鐸研究の最前線－最新の成果から柳沢青銅器を考える－」

難波洋三氏（奈良文化財研究所客員研究員）

#### ウ 発表（2日目）

「中野地方の弥生文化」

柳生俊樹氏（中野市教育委員会）

「弥生時代中期における北陸と信州との地域間交流」久田正弘氏（石川県埋蔵文化財センター）

「弥生時代中期における関東と信州との地域間交流」松田 哲氏（熊谷市教育委員会）

#### エ パネルディスカッション

「中野の弥生文化と地域間交流－柳沢青銅器発見から10年、その後の研究動向－」

パネリスト：柳生俊樹氏、久田正弘氏、松田哲氏  
鶴田典昭

コメンテーター：工楽善通氏、 笹沢 浩氏、  
難波洋三氏、 土屋 積氏



図 65 掘るしん in 中野の様子

## (3) 出前授業・発掘体験等

### ○松本市立波田小学校 (4/27)

内 容：「縄文時代と弥生時代の生活様式の変化について」（1時間授業×2回）

・縄文・弥生時代の生活の様子や土器の特徴について説明し、遺跡から出土した縄文土器や弥生土器、石器を観察した。「本物の土器をさわられてうれしかった。」「教科書にないことも知ることができた。」との感想が寄せられた。



図 66 授業の様子

### ○長野市立篠ノ井東中学校 (7/7)

内 容：「中野市柳沢遺跡で発見された弥生時代の青銅器－銅鐸と銅戈－」（1時間授業）

・総合学習の事前学習として、長野県における銅鐸、銅戈の発見の意義や銅鐸の役割について説明した。普及啓発用の実物大復元銅戈を間近で観察した。活発な質問が出され盛り上がりを見せた。



図 67 授業の様子

### ○中野市立豊井小学校 (7/10)

内 容：「発掘体験（中野市柳沢遺跡）」（2時間授業）

・熱心に掘り進めて、土器を発見した。土器洗浄体験も実施し、縄文、弥生、古代の土器の違いを観察できた。



図 68 発掘体験の様子

○中野市立倭小学校 (7/11,12)

内 容：「縄文時代と弥生時代の違い」「地域にある柳沢遺跡－青銅器埋納坑や銅鐸・銅戈を使ったマツリについて」(2時間授業)、「発掘体験(中野市柳沢遺跡)」(2時間授業)

- ・粘土に施文具を使って模様を付け、本物の土器の模様と比較した。これまでに柳沢遺跡について学習を重ねており、今回はさらに青銅器を使ったマツリについての理解を深めた。
- ・金色に光る復元銅戈に驚きの声があがった。
- ・暑さの中、掘り進め弥生時代や古代の土器片を発見した。土器洗浄体験も実施した。



図 69 授業の様子



図 70 発掘体験の様子

○松本市・山形村・朝日村組合立鉢盛中学校(8/21)  
内 容：「発掘体験(朝日村山鳥場遺跡)」(2時間)  
・夏休みを利用し、縄文時代の竪穴建物跡を発掘した。土器洗浄体験も実施した。「地面を掘っているだけではなく、発掘の方法がわかってよかった。」との感想が寄せられた。



図 71 発掘体験の様子

○長野県小諸高等学校 (10/11,17)

内 容：「長野県埋蔵文化財センターの仕事」(1時間授業)

- ・職場体験の事前学習として、埋文センターの業務について学習し、遺跡保護について考えた。

職場体験は、10/17に埋文センター、石川条里遺跡で実施した。

○長野市立信更小学校 (11/22)

内 容：「縄文土器を洗って歴史を感じよう」(1時間授業)

- ・遺跡出土の縄文土器を洗浄し、模様の観察や施文体験も実施した。考古資料を身近に感じ、縄文人の生活に想像を膨らませた。(長谷川桂子)



図 72 授業の様子

#### (4) 出版物

##### ○埋蔵文化財情報誌『信州の遺跡』（国補事業）

【第11号】2017年7月19日（水）発行

- ・最新調査成果から（長野市 小島・柳原遺跡群）
- ・最新報告書から（飯田市 北方西の原遺跡、安曇野市 明科遺跡群明科廃寺、千曲市 埴科古墳群森將軍塚古墳、南牧村 矢出川遺跡群矢出川第Ⅷ遺跡、長野市 浅川扇状地遺跡群本村南沖遺跡）ほか



図73 『信州の遺跡』第11号・12号

【第12号】2018年2月2日（金）発行

- ・最新調査成果から（佐久市 西一本柳遺跡XXⅡ、川上村 大深山遺跡、伊那市 一夜の城、長野市 長谷鶴前遺跡群）

##### ○教育普及誌（国補事業）

『かがみちゃんと学ぼう ジュニア こうこがく』

【第6号】2018年2月23日（金）発行

- ・山に隠れた戦国時代を探れ！
- ・戦国時代～その時、信濃は？
- ・戦国時代の城跡へ行ってみよう！ほか

##### ○長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書117

『出川南遺跡 防災・安全交付金（街路）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

2018年3月15日（木）発行

- ・松本市出川南遺跡で検出された古墳時代前期から中期の集落の発掘調査報告

##### ○『長野県埋蔵文化財センター年報 34』

2018年3月23日（金）発行

- ・2017年度の事業概要ほか

#### (5) 体験学習用教材

##### ○銅鐸レプリカ作成事業（国補事業）

柳沢遺跡出土2号銅鐸の実物大体験学習用教材レプリカを作成した。鋳型の作成には3次元光学計測データ等を活用し、欠損部分や文様の不鮮明な部分は推定復元した。青銅の成分比は銅84%、錫10～15%とし、可能な限り実物に近づけた。

鋳型は、炭酸ガス硬化砂を木枠内に詰め、樹脂で作成した銅鐸の雄型を砂に押し当てて作成した。鋳型には1000度以上に熱した青銅の湯を流し込んでレプリカが完成した。

製作したレプリカは3月3・4日に実施した「掘るしん in 中野」において展示し実際に触れてもらった。見学者からは銅鐸の重さ、質感がわかると好評であった。（廣田和穂）



図74 鋳型の型枠（中央にあるのは銅鐸の雄型）



図75 青銅を流し込む

## (6) 現地説明会（含遺跡公開）

現地説明会を3遺跡、遺跡公開を1遺跡で実施した。参加者は延べ386人であった。

### ○小島・柳原遺跡群（長野市）

開催日：7月8日（土） 見学者114名。

平安時代から中世の、竪穴建物跡、木棺墓、内耳土器を焼いたと思われる施設、大溝等の遺構を見学してもらい、平安時代の土師器・須恵器や墨書土器、中世の五輪塔や宝篋印塔、お茶の道具の風炉、陶製合子の蓋などの展示遺物の解説を行った。



図76 小島・柳原遺跡群の現地説明会の様子

### ○山鳥場遺跡（朝日村）

開催日：9月2日（土） 見学者136名。

縄文時代の竪穴建物跡の発掘の様子、エゴマ・ダイズ・アズキなどの圧痕が付いた土器や、磨製石斧、土偶の顔、細かい文様がある耳飾りなどの展示遺物の解説を行った。



図77 山鳥場遺跡の現地説明会の様子

### ○柳沢遺跡（中野市）〈遺跡公開〉

開催日：9月14日（木）・15日（金）

見学者延べ36名。

地元柳沢地区の皆さんを中心に発掘作業や遺構、出土品の説明をおこなった。弥生時代の溝跡から土器が出土しており、「実際に発掘調査を見学することができてよかった。」との声も聞かれた。



図78 柳沢遺跡の遺跡公開の様子

### ○長谷鶴前遺跡群（長野市）

開催日：9月30日（土） 見学者100名

1867（慶応3）年から1896（明治29）年頃まで操業していた「長谷焼」の工房跡等の遺構を見学してもらい、窯道具や、油徳利、灯明具、甕などの焼き損じ品の出土遺物の解説を行った。隣接する石川条里遺跡の発掘調査の写真パネルも併せて展示した。



図79 長谷鶴前遺跡群の現地説明会の様子

## (7) 県庁ロビー展等展示会

発掘調査によって出土した資料を県民の皆さんに幅広く紹介するために、本年度は長野県庁と北

信合同庁舎ほかでロビー展、遺跡所在地域での展示会を開催した。

#### ○小島・柳原遺跡群出土品展

開催日：11月5日（日）

会場：長野市柳原公民館

内容：小島・柳原遺跡群の調査速報展

2017年度の調査で出土した平安時代の土器、墨書土器、石製品、土製品や、昨年度に出土した塔鏡形合子（写真パネル）の展示解説を行った。来場者は、古代のベルト飾りである石製の丸鞆や焼き物でできた魚取り網のおもりなどの出土品を間近に見ることができ、熱心に職員の解説に耳を傾けていた。



図80 小島・柳原遺跡群出土品展の様子

#### ○長野県庁ロビー展

開催日：11月13日（月）～11月24日（金）

会場：長野県庁1階 講堂前展示スペース

内容：山鳥場遺跡の調査速報展

朝日村山鳥場遺跡の縄文時代中期の土器、石器、土偶などの遺物や写真パネルを展示した。



図81 県庁ロビー展の様子

#### ○北信合同庁舎ロビー展

開催日：12月4日（月）～15日（金）

会場：長野県北信合同庁舎1階ロビー

内容：柳沢遺跡発掘調査速報展

写真パネルで、以前調査した築堤地点の調査成果と併せて、2017年度の調査成果を紹介した。



図82 北信合同庁舎ロビー展の様子

#### ○松本合同庁舎ロビー展

開催日：1月29日（月）～2月2日（金）

会場：長野県松本合同庁舎 1階ロビー

内容：山鳥場遺跡の調査速報展（パネル展）

朝日村山鳥場遺跡の2017年度発掘調査で発見された、縄文時代中期の竪穴住居跡や土器などの写真パネルと解説パネルを展示した。



図83 松本合同庁舎ロビー展の様子

以上の移動展示は、長野県埋蔵文化財センターの発掘調査について知っていただく良い機会となった。  
(鶴田典昭)

## V 有識者による鑑定・指導

期 日	所 属	氏 名	内 容
6月19日～21日 12月11日～13日 3月5日～7日	京都大学名誉教授	茂原信生	地家遺跡ほかの人骨等について
6月19日～21日 12月11日～13日 3月5日～7日	獨協医科大学	櫻井秀雄	地家遺跡ほかの人骨等について
6月19日～20日 12月11日～13日 3月5日～7日	総合研究大学院大学	本郷一美	塩崎遺跡群の獣骨等について
5月12日 10月24日	信州大学理学部	保柳康一	長谷鶴前遺跡群の地形地質について
5月15日	松本市教育委員会	直井雅尚	出川南遺跡の出土土器について
6月13日 9月20日	元愛知県陶磁美術館	仲野泰裕	長谷鶴前遺跡群の遺構・遺物について
6月6日～7日	長野県文化財保護審議会	会田 進	埋蔵文化財センターの発掘調査業務について（県教委招へい）
6月6日～7日	長野県文化財保護審議会	小野 昭	埋蔵文化財センターの発掘調査業務について（県教委招へい）
6月6日～7日	長野県文化財保護審議会	市澤英利	埋蔵文化財センターの発掘調査業務について（県教委招へい）
6月20日	国立歴史民俗博物館名誉教授	井原今朝男	小島・柳原遺跡群の発掘調査について
7月25日	愛媛大学法文学部	村上恭通	塩崎遺跡群出土の鉄製品について
8月3日～4日	小島柳原遺跡群調査指導委員会 長野県文化財保護審議会	市澤英利	小島・柳原遺跡群の発掘調査について
8月3日～4日	小島柳原遺跡群調査指導委員会 元興寺文化財研究所	狭川真一	小島・柳原遺跡群の発掘調査について
8月3日～4日	小島柳原遺跡群調査指導委員会 立正大学文学部	時枝 務	小島・柳原遺跡群の発掘調査について
8月3日～4日	小島柳原遺跡群調査指導委員会 奈良国立博物館	内藤 栄	小島・柳原遺跡群の発掘調査について
8月3日～4日	小島柳原遺跡群調査指導委員会 京都美術工芸大学	村上 隆	小島・柳原遺跡群の発掘調査について
8月4日	小島柳原遺跡群調査指導委員会 宮内庁正倉院事務所	西川明彦	小島・柳原遺跡群の発掘調査について
10月11日	安曇野市環境審議会	浅川行雄	山鳥場遺跡の地形地質について
1月12日	信州大学教育学部	伊藤冬樹	プレゼンテーション入門
2月13日～14日	本庄市立歴史民俗資料館	鈴木徳雄	ひんご遺跡の遺物について
2月13日～14日	(有)ペンタラボ	石坂圭介	ひんご遺跡の遺物について
2月16日	立正大学文学部	時枝 務	地家遺跡の木製品について

## VI 会議・研修会等への参加

### (1) 会議・委員会等

期 日	内 容	出 席 者	場 所
4月11日 7月25日 10月24日 2月23日	リニア中央新幹線関連埋蔵文化財調整会議	平林 彰 岡村秀雄	飯田市役所
4月12日 1月5日 3月16日	指導主事・専門主事会議	近藤尚義 黒岩 隆	長野県庁
4月20日	公共開発事業に伴う埋蔵文化財保護に係る関係者会議	杉木有紗	総合教育センター
4月28日 9月20日 1月10日	長野県文化振興事業団館長・所長会議	会津敏男	ホクト文化ホール 信濃美術館
5月10日	公社公団等連絡会議研修会	小林伸子 飯島公子	長野保健所
5月23日	県教委・歴史館・図書館・埋文センター四者連絡会議	会津敏男 関崎修二 平林 彰 ほか4名	長野県埋蔵文化財センター
5月26日 10月19日 3月23日	長野県文化振興事業団理事会	会津敏男	ホクト文化ホール
6月6日	長野県文化財保護審議会史跡・考古資料部会	平林 彰 岡村秀雄	長野県立歴史館
6月15日～16日	第38回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	山本希一 櫻井秀雄	ホテルメルパルク横浜
8月2日	文化財保護行政市町村担当者会議	贅田 明 小林伸子 杉木有紗	長野県庁
9月14日以下5回	埋蔵文化財の移管手順に関する会議	櫻井秀雄 鶴田典昭 水澤教子	長野県埋蔵文化財センター
9月21日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会調査情報交換会議	綿田弘実	東京都埋蔵文化財センター
9月21日～22日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会中部・北陸ブロック会議	会津敏男 関崎修二 平林 彰 ほか4名	長野県立歴史館
11月10日	平成30年度以降実施予定の公共事業等に係る埋蔵文化財等の保護協議 長野市小島・柳原遺跡群、塩崎遺跡群、石川条里遺跡、長谷鶴前遺跡群	平林 彰 川崎 保 櫻井秀雄 ほか4名	長野市小島・柳原遺跡群現地 塩崎遺跡群現地
11月30日	平成30年度以降実施予定の公共事業等に係る埋蔵文化財等の保護協議 長野市浅川扇状地遺跡群	平林 彰 川崎 保 西 香子	長野県庁西庁舎
12月1日	関ブロ埋文行政担当者会議	岡村秀雄	山梨県庁
1月15日	平成30年度以降実施予定の公共事業等に係る埋蔵文化財等の保護協議 中野市柳沢遺跡	川崎 保	長野県北信合同庁舎
1月26日	平成30年度以降実施予定の公共事業等に係る埋蔵文化財等の保護協議 松本波田道路関連遺跡	平林 彰	松本波田道路関連遺跡
1月31日	平成30年度以降実施予定の公共事業等に係る埋蔵文化財等の保護協議 朝日村山鳥場遺跡	岡村秀雄	松本合同庁舎
2月6日	黒曜石原産地遺跡関連市町村保存活用連絡会議	岡村秀雄	長野県埋蔵文化財センター
2月6日	信州黒曜石文化研究会	水澤教子 杉木有紗	長野県埋蔵文化財センター
2月20日	報告書データベース作成に関する説明会	鶴田典昭 上田 真	東京文化財研究所

## (2) 研修会・資料調査等

期 日	内 容	参加者・調査者	場 所
5月25日	山鳥場遺跡の資料調査	廣田和穂 齋田 明 杉木有紗	塩尻市平出博物館
6月2日	特別管理産業物管理責任者に関する講習会	櫻井秀雄	長野バスターミナル会館
7月4日	山鳥場遺跡の資料調査	廣田和穂 齋田 明 杉木有紗	松本市考古博物館
7月14日	川原遺跡、出川南遺跡の資料調査	黒岩 隆 石丸敦史 片山祐介	松本市考古博物館
8月30日～9月1日	埋蔵文化財担当職員講習会	岡村秀雄 杉木有紗	横浜情報文化センター
9月12日	山鳥場遺跡の資料調査	廣田和穂 齋田 明 杉木有紗	岡谷市美術考古館
9月28日	山鳥場遺跡の資料調査	廣田和穂 齋田 明 杉木有紗	朝日村美術館
11月13日～17日	古代・中近世瓦調査課程	柴田洋孝	奈良文化財研究所
11月16日～17日	関プロ埋蔵文化財担当職員共同研修協議会	水澤教子 黒岩 隆 杉木有紗	諏訪市文化センター
11月16日～17日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	関崎修二 近藤尚義	愛知県産業労働センター
11月21日	考古資料保存処理講習会	飯島公子 杉木有紗	長野県立歴史館
11月27日～12月7日	文化財写真課程	廣田和穂	奈良文化財研究所
12月1日	労働者派遣法等セミナー	櫻井秀雄	ホクト文化ホール
12月7日～8日	浅川扇状地遺跡群ほか古墳時代土器資料調査	石丸敦史	愛知県安城市埋蔵文化財センター
12月7日～14日	報告書編集基礎課程	片山祐介	奈良文化財研究所
12月12日～13日	地域資源を活かしたまちづくり研修	石丸敦史	長野県自治会館
12月14日～21日	報告書デジタル作成課程	西 香子	奈良文化財研究所
12月19日	小島・柳原遺跡群の資料調査	川崎保 寺内貴美子 石丸敦史 柴田洋孝	長野市埋蔵文化財センター
1月18日	小島・柳原遺跡群の資料分析	平林 彰 川崎 保 寺内貴美子 石丸敦史	奈良国立博物館
2月7日～8日	川原遺跡の資料調査	黒岩 隆	愛知県埋蔵文化財センター 豊田市郷土資料館
2月9日	小島・柳原遺跡群の資料調査	川崎保 寺内貴美子 石丸敦史	栃木県日光二荒山神社宝物館
2月13日～16日	保存科学Ⅲ（応急処置）課程	杉木有紗	奈良文化財研究所
2月14日	山鳥場遺跡の資料調査	齋田 明	駒ヶ根市立博物館
2月15日～16日	博物館等関係職員研修会	平林 彰 小林伸子 飯島公子	長野県立歴史館
3月6日～7日	山鳥場遺跡の資料調査	杉木有紗	上松小学校
3月8日～9日	山鳥場遺跡の資料調査	廣田和穂	山梨県埋蔵文化財センター・北杜市
3月8日	市町村埋蔵文化財担当者発掘技術研修会	櫻井秀雄 鶴田典昭 石丸敦史 ほか8名	長野県埋蔵文化財センター

## Ⅶ 学校・関係機関等への協力

### (1) 学校関係への協力

期 日	学 校 名	対 応 者	内 容
4月27日	松本市立波田小学校	綿田弘実 西 香子 水澤教子	出前授業
7月5日～7日	長野市立三陽中学校	綿田弘実	職場体験
7月4日～5日	長野市立篠ノ井西中学校	綿田弘実	職場体験
7月7日	長野市立篠ノ井東中学校	川崎保 長谷川桂子	出前授業
7月10日～11日	長野市立川中島中学校	綿田弘実	職場体験
7月10日	中野市立豊井小学校	綿田弘実 鶴田典昭 長谷川桂子	発掘体験
7月11日	中野市立倭小学校	綿田弘実 廣田和穂 長谷川桂子	出前授業
7月12日	中野市立倭小学校	鶴田典昭 長谷川桂子	発掘体験
7月19日～20日	長野市立広徳中学校	綿田弘実	職場体験
7月20日～21日	長野市立篠ノ井東中学校	綿田弘実	職場体験
8月21日	松本市、山形村、朝日村 組合立鉢盛中学校	廣田和穂 贅田 明	発掘体験
8月21日～9月4日	国立長野工業高等専門学校	綿田弘実	職場体験 (インターンシップ)
9月29日	長野市立篠ノ井東中学校	西香子 長谷川桂子	体験学習講座講師
10月10日・20日	長野市立柳原小学校	寺内貴美子 石丸敦史	小島・柳原遺跡群遺跡見学
10月11日	長野県立小諸高等学校	綿田弘実	出前授業
10月17日	長野県小諸高等学校	綿田弘実 片山祐介	職場体験
10月26日～27日	長野市立大岡中学校	綿田弘実	職場体験
11月22日	長野市立信更小学校	贅田 明 川崎 保	出前授業

### (2) 講師等の派遣・技術指導

月 日	依 頼 者	派 遣 者	内 容
4月28日	小諸市教育委員会	河西克造	小諸市文化財保護審議会
5月20日	信濃史学会	水澤教子	定期総会 研究報告
5月27日	全佐久PTA連合会	櫻井秀雄	佐久地区小・中学校PTA 実践力向上研修会実践講座
6月9日	長野県鋳物工業協同組合	廣田和穂	28年度総会講演会

月 日	依 頼 者	派 遣 者	内 容
6月17日	長野県立歴史館	櫻井秀雄	歴史館ふるさと講座
6月19日～23日	東北大学文学部	水澤教子	非常勤講師 博物館資料保存論
6月24日	須坂市教育委員会	綿田弘実	文化財審議委員会調査
8月26日	八ヶ岳JOMONライフフェスティバル実行委員会	黒岩 隆	親子で体験 リアルJOMONライフ講師
9月9日	岩原自然と文化を守り育てる会	河西克造	安曇野市岩原城跡の調査と講演
10月15日	山梨県北杜市教育委員会	川崎 保	企画展「縄文時代のアクセサリー」講演会
10月16日～20日	東北大学文学部	水澤教子	非常勤講師 博物館展示論
10月26日	中野市立博物館	水澤教子	中野市立博物館協議会
11月12日	NPO法人東海学センター	川崎 保	第5回東海学シンポジウム講師
11月16日	諏訪市文化センター	綿田弘実	関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員共同研修協議会
11月17日	愛知県埋蔵文化財センター	綿田弘実	愛知県設楽町大畑遺跡の遺構・遺物について
11月21日	須坂市教育委員会	綿田弘実	文化財審議委員会調査
12月10日	柳沢区民会館	鶴田典昭	柳沢遺跡八千年の歴史
12月11日	高山村二ツ石裏遺跡、大窪遺跡	黒岩 隆	確認調査の立会い
12月14日	上田市教育委員会	水澤教子	上田市文化財保護審議会
12月15日	小布施町教育委員会	鶴田典昭	小布施町文化財保護審議会
12月19日	小諸市教育委員会	綿田弘実	史跡寺ノ浦石器時代住居跡調査指導
12月26日	伊那市高遠町総合支所	河西克造	史跡高遠城跡整備委員会
1月20日	朝日村中央公民館	杉木有紗	山鳥場遺跡発掘調査報告会
1月27日	長野市郷土史研究会朝陽支部	寺内貴美子	長野郷土史研究会歴史講演会
2月13日	小諸市教育委員会	河西克造	文化財保護審議委員会
2月18日	篠ノ井住民自治協議会	柴田洋孝	川柳文化講演会・郷土歴史講演

### (3)事業関係機関等への協力

月 日	依 頼 者	対 応 者	内 容
4月13日	長野市篠ノ井五明区誌編纂委員会	綿田弘実	施設見学
5月11日	栄村教育委員会 村誌編纂専門委員会	綿田弘実	施設見学
6月28日 11月9日	長野市柳原地区住民自治協議会	寺内貴美子	小島柳原遺跡群現場見学

月 日	依 頼 者	対 応 者	内 容
7月7日	長野市埋蔵文化財センター	川崎 保 寺内貴美子	小島・柳原遺跡群現場見学
11月5日	長野市柳原地区	寺内貴美子	地区文化祭で展示
11月13日～24日	長野県教育委員会文化財・生涯学習課	岡村秀雄 廣田和穂 贄田 明 杉木有紗	生涯学習月間 県庁ロビー展示
11月22日	野沢温泉村教育委員会	綿田弘実	施設見学
12月4日～15日	長野県北信合同庁舎	鶴田典昭	柳沢遺跡のパネル展示
1月17日	栄村教育委員会	綿田弘実	施設見学
1月29日～2月2日	長野県松本合同庁舎	廣田和穂 贄田 明 杉木有紗	山鳥場遺跡のパネル展示
2月21日	佐久市教育委員会	市川隆之	出土品の鑑定

#### (4)調査資料貸与・閲覧等

施行月日	貸与・閲覧等	対 応 者	内 容
5月26日	新潟県柏崎市 伊藤啓雄	岡村秀雄 若林 卓	地家遺跡出土板碑の閲覧
6月22日	伊那市創造館	西 香子	信州の遺跡第10号掲載図の転載
7月21日	中野市中央公民館柳沢分館	鶴田典昭	柳沢遺跡調査風景写真転載
8月2日	長野県立歴史館	綿田弘実	掘るしん in し の の い の 写真転載
8月29日	中野市立博物館	平林 彰	沢田鍋土遺跡報告書、清水山窯跡報告書の転載
9月7日	長野市立柳原小学校	寺内貴美子	信州の遺跡第11号掲載図の転載
9月21日・28日	静岡市登呂博物館	西 香子	長野市松原遺跡、篠ノ井遺跡群の土器集合写真の貸与
10月16日	中野市柳沢区	鶴田典昭	中野市柳沢遺跡写真貸与
11月10日	株式会社コヤマ	川崎 保	復元した銅戈の写真貸与
11月20日	株式会社マイナビ出版	廣田和穂	伊那市高遠城跡の写真貸与
12月20日	篠ノ井住民自治協議会	柴田洋孝	長野市長谷鶴前遺跡群の遺構写真転載
12月27日	長野県立歴史館	綿田弘実	栄村ひんご遺跡等の遺物・写真貸与
1月15日	長野県立歴史館	西 香子	松原遺跡の遺物写真貸与
2月7日	中央大学教授 小林謙一	綿田弘実	栄村ひんご遺跡の土器付着炭化物試料提供
2月15日	会田 進	岡村秀雄	朝日村山鳥場遺跡の種実圧痕土器写真貸与
2月27日	長野市柳原地区住民自治協議会	寺内貴美子	小島・柳原遺跡群の遠景・遺物写真の転載
2月27日	ジャパン通信社	平林 彰	朝日村山鳥場遺跡の遺構・遺物写真貸与

## Ⅷ 組織・事業の概要

### (1) 組織

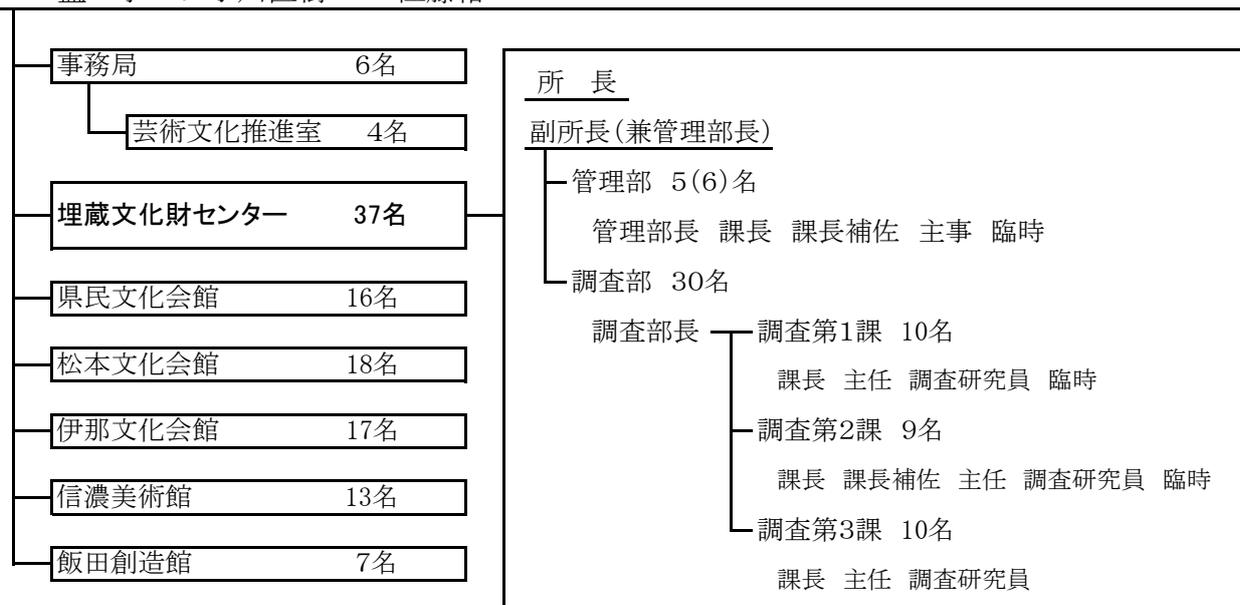
2018(平成30)年3月1日現在

一般財団法人長野県文化振興事業団

【評議員】4名 水本一雄      堀内征治      青木 弘      笠原甲一
--

#### 【理事会】12名

理事長：近藤誠一(元文化庁長官)  
 理事：武井勇二      橋本光明      金澤 茂      市澤英利      出川久雄  
          宮澤敏夫      唐木幸子      松山 光  
 監事：小川直樹      佐藤裕一



### (2) 職員(臨時職員を除く)

2018(平成30)年3月1日現在

所 長		会津敏男
副 所 長		関崎修二
管 理 部	管理部長(兼)	関崎修二
	管 理 部 長	山本希一
	管理課長補佐	望月英夫
	主 事	戸谷良子      日向 育
調 査 部	調 査 部 長	平林 彰
	調 査 課 長	[第1課] 岡村秀雄 [第2課] 川崎 保 [第3課] 櫻井秀雄
	調 査 課 長 補 佐	[第2課] 綿田弘実
	主任調査研究員	[第1課] 水澤教子 若林 卓 藤原直人 廣田和穂 贅田 明 [第2課] 鶴田典昭 西 香子 寺内貴美子 長谷川桂子 [第3課] 市川隆之 河西克造 上田 真
	調査研究員	[第1課] 黒岩 隆 杉木有紗 [第2課] 石丸敦史 片山祐介 [第3課] 近藤尚義 柴田洋孝 廣瀬昭弘 小林伸子 飯島公子 風間真起子

(3) 事業

事業名		委託事業者	事業個所	事業内容	精算(千円)	
受託事業	発掘・整理作業	中部横断自動車道建設事業	佐久市 地家遺跡ほか	整理作業	38,964	
		一般国道18号 (坂城更埴バイパス)改築工事	国土交通省 関東地方整備局 長野国道事務所	長野市 石川条里遺跡ほか	発掘作業 整理作業	244,663
		一般国道18号 (長野東バイパス)改築工事		長野市 小島・柳原遺跡群	発掘作業	66,442
		天竜川下久堅地区 築堤護岸工事	国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所	飯田市 下川原遺跡ほか	発掘作業 整理作業	54,270
		社会資本整備 総合交付金 (広域連携)事業 (一)箕作飯山線	長野県 北信建設事務所	栄村 ひんご遺跡	整理作業	27,302 (うち5,076千円 はH28年繰越分)
		社会資本整備 総合交付金 (広域連携)(ゼロ県債)事業 (一)中野飯山線		中野市 柳沢遺跡	発掘作業	58,590
		社会資本整備 総合交付金 (街路)事業(都)高田若槻線	長野県 長野建設事務所	長野市 浅川扇状地遺跡群	整理作業	38,210
		松本市出川防災・安全交付金 (街路)事業(都)出川双葉線	長野県 松本建設事務所	松本市 出川南遺跡	整理作業 報告書刊行	18,123
		県単道路改築事業(ゼロ県債) (一)御馬越塩尻(停)線		朝日村 山鳥場遺跡ほか	発掘作業	53,244
		JR東海中央新幹線工事	東海旅客鉄道株式会社	飯田市 的場遺跡ほか	確認調査	4,400
研修等	長野県教育委員会	奈良文化財研究所				
自主事業	普及啓発	7月 夏休み考古学チャレンジ教室 3月 掘るしんin 中野 随時 遺跡の現地説明会 随時 出前授業、体験発掘 広報誌刊行「信州の遺跡」11・12号、「ジュニアこうこがく」6号 ホームページ公開			1,769	
				合計	605,977	

## Ⅸ 調査研究ノート

### (1) 塩崎遺跡群出土石器と石材の紹介

市川 隆之

#### 1 はじめに

長野県埋蔵文化財センターでは2013年度より塩崎遺跡群の発掘調査を実施し、2017年度より整理作業も本格化した。石器の整理にも着手し、石器や石材について若干の知見が得られてきたのでここで紹介する。

弥生時代は石器から鉄器への移行が説かれるが、それは単なる材質変換ではなく、当時の社会の流通システムの違いに関連した地域ごとに複雑な様相とされる。逆にいえば、石器と鉄製品の流通状況、その変化の課程を捉えることは当地域の弥生社会や変化に接近できる材料の一つともいえる。

当地域では弥生時代中期に石器が主体的に用いられ、その後半期には広域に流通した榎田産石斧(町田1999)が知られるが、それ以外の石器について遺跡ごとの入手状況はあまり検討されていない。そこで、塩崎遺跡群の石器の生産・入手状況を理解するため、周辺の石材産地を踏査してみた。

#### 2 塩崎遺跡群出土石器の概要

塩崎遺跡群の石器は後代の遺構への混入品も多いが、大部分が弥生時代中期の所産と思われる。時期が特定できた一部の遺構でみると、弥生時代中期を通じて打製石鏃・打製石錐・打製刃器等があり、中期中葉以後には石包丁等の大陸系磨製石器が加わって(町田1994)器種が増える。器種が入れ替わるのではなく新器種が加わる様相で、それは収穫具に打製刃器と磨製石包丁、刃部のみを研磨した打製刃器があるように形態の増加とみるべきところもある。

整理途中ながら、石器石材をまとめると表1のようになる。量は感覚的なもので具体的な数値までは挙げられないが、打製石鏃・打製石錐・削器・UF・RF等の剥片石器は黒曜石、打製石斧・大

型刃器・石包丁等の石核石器は黒色頁岩・珪質堆積岩・安山岩、台石は安山岩、砥石は砂岩が圧倒的に多い。石斧は中期全体を含むためか、大型蛤刃石斧は榎田産緑色岩類・頁岩・凝灰岩、扁平片刃石斧は蛇紋岩・頁岩・珪質堆積岩等がある。

	器種	石 材
剥片石器	打製石鏃	◎黒曜石>チャート>頁岩・珪質頁岩・玉髄・無斑晶流紋岩・玻璃質安山岩
	磨製石鏃	○千枚岩>頁岩>珪質堆積岩
	打製石錐	◎黒曜石>石英岩・頁岩
	削器	◎黒曜石>玉髄・珪質頁岩
	UF・RF	◎黒曜石>チャート・玉髄
石核石器	打製石斧	頁岩>珪質堆積岩>安山岩
	大型刃器	◎珪質堆積岩・頁岩>安山岩
	石包丁	◎珪質堆積岩・頁岩>砂岩・安山岩
	両刃石斧	緑色岩>緑色凝灰岩>玄武岩質安山岩?・頁岩
	片刃石斧	頁岩>蛇紋岩>珪質堆積岩>緑色岩>砂岩
礫石器	台石	◎安山岩>砂岩
	砥石	◎砂岩>凝灰岩・泥岩・頁岩

表1 石器機種別の石材  
(◎は圧倒的に多い石材、○はやや多い石材)

上記から多用される石材として黒色頁岩、珪質堆積岩、安山岩、黒曜石、砂岩が挙げられる。なかでも黒色頁岩・珪質堆積岩は磨製と打製石器の多様な器種に用いられる汎用性が高い石材である。その一方で出土量が少ない希少石材として剥片石器ではチャート・無斑晶流紋岩・玉髄・珪質頁岩、礫石器では凝灰岩・玄武岩質安山岩等がある。

石材の選択では、機能を満たす硬度や石質が関係すると思われるが、塩崎遺跡群では石材が数種類で賄えたとみられ、それは周辺で入手しやすい石材が多いとも考えられる。

多用される石材の原石の形状は、剥片や部分的に残る自然面から、頁岩が角礫と亜円礫・円礫、珪質堆積岩は亜円礫・円礫、砂岩・安山岩は角礫と推定される。角礫は山地、亜円礫・円礫は河川

採取とみられる。なお、遺跡付近では千曲川の勾配が緩く巨礫がないため、石器サイズも千曲川と山地採取の識別の参考になると考えた。こうした予想を踏まえ、遺跡周辺での入手の可能性を調べてみた。なお、踏査に当たっては塩崎遺跡群に隣接する更埴地方の地質研究を行った塩野入氏の地質研究、長野県地質図活用普及事業研究会編著『長野県デジタル地質図 2015』を参照した。

### 3 遺跡周辺の岩石露頭観察

まず善光寺平南部の地質概要をみておきたい。当地域では新第三紀の別所層一頁岩、青木層一礫岩・砂岩・砂質泥岩（本間 1931）、小川階の麻績層一礫岩・砂岩、同裾花層一凝灰岩（斎藤 1968）、同冠着層一安山岩質凝灰角礫岩・溶岩・安山岩質凝灰岩（加藤 1980）が捉えられている。その層順と岩石相から、当地域は第三紀に海底にあったが、火山活動の活発化と共に隆起し、粒径の粗い堆積物への変化、火山活動による火山岩層や凝灰岩層の形成、脈状に入る溶岩や熱水等の影響が堆積岩へ及ぶ変遷とされる（塩野入 1991）。

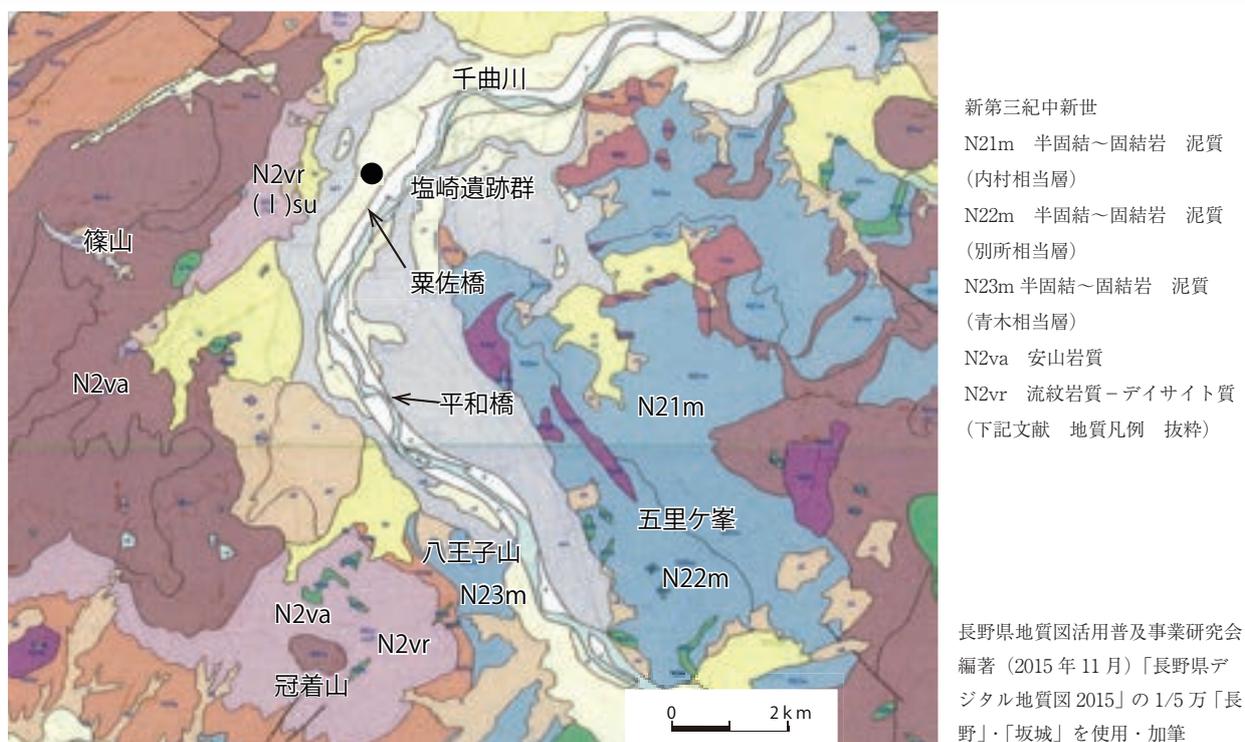
各地層の分布だが、堆積岩の別所・青木層は千曲川右岸の五里ヶ峯周辺山地や左岸の冠着山南東

山麓等、裾花・冠着層の火山活動由来の岩石は千曲川左岸山地の山塊上部に認められ、善光寺平南端の山地を形成する冠着山・三峰山・聖山・篠山等は安山岩の残丘と捉えられるという。また、脈状貫入による火山岩が点在する。（第1図）

各層の岩相から石器石材の黒色頁岩・珪質堆積岩・砂岩は別所層・青木層・麻績層、安山岩は聖山・三峰山・冠着山等の火山岩由来と思われる。遺跡に近い産出場所は、黒色頁岩・珪質堆積岩が千曲市五里ヶ峯周辺や八王子山周辺、砂岩は千曲市羽尾周辺、安山岩は長野市篠山となる。当然、これらの石は盆地最低部を流れる千曲川へ供給されたとみられる。今回は上記のなかで珪質堆積岩、安山岩、千曲川河川礫について現地踏査を行った。

#### (1) 八王子山の珪質堆積岩

遺跡出土の珪質堆積岩は、緻密でやや珪質、表面は酸化鉄で茶褐色に変色し、破断面は灰白色か青味がかかった灰白色を呈する特徴的な石材である。肉眼観察では色調や質感は泥岩で、ここでは珪質堆積岩とした。この岩石は塩野入氏の記述にみえる千曲市八王子山産出岩石に極めて似ている。八王子山は千曲市の旧戸倉町と上山田町境、



第1図 遺跡周辺の地質図



八王子山山頂付近の露頭

千曲市の冠着山から千曲川岸まで延びた尾根で、青木層からなる。中腹は風化した軟弱な泥岩だが、山頂部付近に硬質の岩石が分布する。その山頂付近の岩石は、破断面が青灰色・灰白色、摂理面は酸化鉄で茶褐色を呈し、まさに塩崎遺跡群出土の石材と類似する。塩野入氏はこの岩石を熱水の影響で珪質化した変質頁岩と紹介していた（塩野入 1970）が、後に無斑晶状流紋岩に修正（仮称？－塩野入 1991）、さらに変質泥岩（塩野入 1997）としている。筆者には岩石名称の妥当性はわからないが、塩崎遺跡群出土石鏃には珪質の白色無斑晶流紋岩もあり、その違いを考慮して珪質堆積岩とした。しかし、八王子山産出の岩石と遺跡出土石材はほぼ同一視でき、遺跡出土の石材は八王子山から千曲川へ供給された石とみられる。

## (2) 篠山の安山岩

篠山は塩崎遺跡群西方にそびえる遺跡に最も近い山である。山麓には崖錐地形が発達し、山頂近くは緩やかな地形となる。大きな岩石露頭はみられないが、山頂より若干下がった付近に岩石塊が多く転がる。これ以外に山腹や山麓の崖錐堆積物中に巨大な安山岩転石が混在し、沢でも採取可能である。また、遺跡北西の聖川が断層崖を抜けて塩崎・石川地区の沖積地に出る付近に、一抱えもある大きな岩塊が認められる。これらの安山岩転石は表面が灰色を呈するが、破断面は暗灰色もしくは黒灰色で斜長石等の結晶が目立つ。篠山や周辺山塊の安山岩は、場所によって含有鈹物や、凝灰岩質・デイサイト質・玄武岩質となる違いもある



篠山山頂付近の礫露出状況

るようだが、肉眼観察では遺跡出土のものと篠山周辺で見られる安山岩は類似する。

## (3) 千曲川の河川礫

遺跡出土の珪質堆積岩や一部の黒色頁岩には重円礫・円礫を用いたと思われるものがあり、遺跡近くの千曲川で採取された可能性は考えうる。塩野入氏によると千曲川礫は、火成岩に安山岩・石英閃緑岩・石英玢岩・石英斑岩・玢岩、堆積岩はチャート・粘板岩・緑色凝灰岩があり、量的には安山岩>チャート>緑色凝灰岩・玢岩・石英閃緑



平和橋周辺の千曲川河川礫

岩の順で、粘板岩・泥岩・砂岩は少ないという。

千曲川の流路は時代ごとに変化し、現代ではダムがあるが、構成礫に大きな差異はないと考え、遺跡に近い栗佐橋周辺と、やや上流の平和橋周辺の河川敷を踏査した。この周辺は川床勾配が緩く、泥や砂等の細かい堆積物が河川敷表面を覆って川岸まで畑となる。河川礫床は現河道脇の浸食崖か、河床内の限られた場所でしかみられなかった。また、礫サイズも拳大～人頭大中心で巨礫はない。

踏査では一定範囲内の岩石種別の数量までは計測していないが、安山岩、閃緑岩、緑色凝灰岩、チャートが目立つことは確認できた。珪質堆積岩はやや多く採取でき、頁岩、砂岩は少ない。

#### 4 まとめ

踏査から石材採取地は以下のように推定される。円礫・亜円礫素材で千曲川採取と推定した珪質堆積岩は、サイズや量からも千曲川礫で十分利用可能とみられた。一方、黒色頁岩は出土量の割に千曲川では少なく、同器種に同量ほど用いられる珪質堆積岩とは千曲川の礫構成比に比例しない。黒色頁岩に角礫が含まれる可能性から、別地点の採取が考えられる。

安山岩は遺跡出土サイズが千曲川で採取できず、原石が角礫と推定されること、石質の類似から篠山での採取が考えられる。砂岩は千曲川では小型で風化して脆いものが多く、山地の採取と思われる。

黒色頁岩と砂岩は採取場所を特定しえなかったが、地質図では周辺に産すると知られ、上記の黒曜石以外の多用石材は近隣で入手可能といえる。

一方、異質なのが黒曜石で、遺跡周囲で入手可能なチャートや流紋岩の打製石鏃も僅かにあるが、遠隔地産黒曜石を多用する理由は、加工の利便性だけでは説明しにくい。栗林1～2式古段階を主体とする長野市檀田遺跡（長野市教委2004）では、流紋岩・頁岩製打製石鏃が多いので、黒曜石の多用は榎田産石斧と同じ流通で運ばれた（馬場2006）時期的な搬入状況も関係するのだろうか。

なお、蛇紋岩、白色流紋岩、玉髓、千枚岩等の希少石材は、製品のみや人間の移動に伴う搬入、希少器種の石材搬入、補助石材等が考えられる。これについても剥片の有無や形態差に注意し、遺跡内製作石器との関係も検討したい。

以上、塩崎遺跡群出土石器石材をめぐる踏査結果を紹介した。塩崎遺跡群では中期後半に榎田産石斧、中期を通じて黒曜石が搬入されるが、他の多用石材は近在で入手しえる。しかも、礫石器主

体の砂岩を除けば、多用石材の剥片・失敗品が認められ、敲石や砥石の存在からも遺跡内の製作が想定される。遠隔地への採取やストックを考えなくとも大部分は必要時に入手可能とみられる。

上記の結果から派生する課題を考えたい。今回捉えられた周辺採取の石材で収穫具・耕作具等の石器を自給する集落の様子の中なかで、搬入される榎田産石斧と黒曜石は本遺跡のみならず集落間を貫く存在としてやや異質にみえる。

この榎田産石斧・黒曜石の搬入は少なくとも中期後半に認められるが、塩崎遺跡群には中期と思われる凝灰岩等の石斧、黒曜石代替石材とみられるチャートもある。このことから、上記の中期後半に至る様相も、時期毎の器種と石材の関係で一旦整理する必要があると思われる。この組成の変化を追うなかで遺跡外より搬入された石斧や黒曜石の性格を解く鍵が得られるかもしれない。

また、長野県北部では弥生時代中期末の春山B遺跡、南大原遺跡で鉄斧が出土しており、この中期末以後に鉄器流入による石器組成変化が考えられる。これも視野に入れつつ、石器を通じた弥生時代中期の集落間の関係、弥生時代後期への流通の変化を探る材料が得られればと考える。

#### 参考文献

- 加藤硯一 1980『坂城地域の地質』地質調査所
- 斎藤豊 1968「第二章 第四節 河西地域」『更級埴科地方誌』第一巻 更級埴科地方誌編纂委員会
- 塩野入忠雄 1970『信州更級地方 地質スケッチ』私家本
- 塩野入忠雄 1991「第2章 第9節 岩石の研究」『戸倉町誌 自然編』戸倉町誌編纂委員会
- 塩野入忠雄 1997『千曲川貫通谷 長野県更級地方の地質観察』(社)信濃教育会出版部
- 長野市教育委員会 2004『檀田遺跡(2)』
- 長野県地質図活用普及事業研究会編著 2015年11月『長野県デジタル地質図2015』
- 本間不二男 1931『信州中部地質誌』古今書院
- 町田勝則 1994「信濃に於ける米作りと栽培」『長野県考古学会誌』73号 長野県考古学会
- 町田勝則 1999「第V章 第2節 4考察(2) 太型蛤刃石斧」『榎田遺跡』長野県埋蔵文化財センター
- 馬場伸一郎 望月明彦 2006「中部高地の弥生時代を中心とした黒曜石産地とその推移について」『長野県考古学会誌』115

## (2) 長野県における古代瓦出土地点（東北信編）

柴田 洋孝

### 1 はじめに

今年度、長野市小島・柳原遺跡群の発掘調査において古代瓦が1点出土し、昨年出土した「塔鏡形合子」に続き、仏教関連の遺物が出土したことで注目された。現在までに長野市域を含め、県内では発掘調査によって複数箇所<sup>1)</sup>で古代瓦の出土が確認されているが、近年の調査成果を踏まえた網羅的な研究は少ない。そこで、まずは千曲川流域を中心とした東北信地域の古代瓦出土地点をまとめ、今後の研究の基礎資料となるようにしたい。

長野県における古代瓦の研究は、米山一政氏<sup>2)</sup>をはじめとする研究者によって進められるが、県内において明確に寺院跡として発掘調査された事例が少ないため、工事などによって偶発的に発見された瓦や表採品などに頼るところが多かったようである。その中で、信濃国分寺跡の出土瓦<sup>3)</sup>については文様瓦が中央の文様と類似している点などについて黒坂周平氏・森郁夫氏<sup>4)</sup>などが注目し、論考が発表され研究が進められた。倉澤正幸氏<sup>5)</sup>は信濃国分寺跡の出土瓦の研究をはじめとし、上田地域の丸瓦・平瓦の変遷をまとめるなど県内の古代瓦研究を牽引しており、近年では鳥羽英継氏が各地の古代瓦の見直しを進めている。

今回、古代瓦の出土を確認した遺跡を一覧表としてまとめた結果、43地点55遺跡（表採等含む）にのぼり、寺院跡・官衙跡15か所（推定地含む）、集落遺跡30か所、窯跡12か所となった。寺院跡とされる遺跡は各地域に点在しているが、古代の行政区画の郡単位で見ると小県郡から佐久郡にかけてはやや多い印象を受ける。古代信濃国の郡についてであるが、全10郡のうち千曲川流域には6つの郡が存在している。千曲川右岸の中野・須坂地域を中心とした高井郡、犀川左岸の長野市から千曲川左岸の栄村までを中心とした水内郡、長野市松代・千曲市屋代地域を中心とした埴科郡、犀川右岸の長野市・千曲川左岸の千曲市・坂城町を含む更級郡、上田地域を中心とした小県郡、佐久・小諸地域を中心とした佐久郡に分けられてい

た。

### 2 瓦出土地点

#### 寺院跡

寺院跡として建物跡に伴って瓦が出土したのは千曲市雨宮廃寺・坂城町込山廃寺・上田市信濃国分寺跡であるが、雨宮廃寺・込山廃寺は全体像の把握には至っていない。信濃国分寺跡は1963（昭和38）年に緊急発掘調査が開始され、現在に至るまで調査が続いている。近年の研究では、信濃国分寺は741（天平13）年の詔発布から遅れること20年以上経った8世紀第3四半期頃<sup>6)</sup>にようやく総瓦葺建物が揃ったようであるが、造営初期の建物には在地の瓦を使用していたという指摘もある。信濃国分寺跡から直線距離で北西に約12km離れた坂城町込山廃寺・土井ノ入窯跡から出土した瓦は信濃国分寺跡からも出土しており、「更」や「伊」という郡名（更級郡・伊那郡）を示すとされる文字瓦が出土していることなどからも、信濃国分寺の造営に郡の協力が反映されていたことが読み取れる。

長野市元善町遺跡（善光寺周辺）では古くから瓦が出土することは知られており、古代から善光寺が存在していた可能性が指摘されていたが、明確に建物跡は確認されていない。近年の発掘調査で瓦が多量に混入していた堆積層や、中世の造成跡とみられる範囲が確認され、奈良時代から中世までの瓦が出土している。古代において善光寺の名を冠していた寺院が存在していたかは不明であるが、瓦の出土から瓦葺の建物があったことは間違いないとみられ、水内郡の郡衙（県町遺跡に推定）も近いことから郡内における郡寺であった可能性も考えられる。

#### 集落跡

長野市浅川扇状地遺跡群牟礼バイパス地点の発掘調査では平安時代の竪穴建物跡を中心に200点を超える古代瓦が出土しているが、出土した瓦は奈良時代のものであるため、おそらく近隣の窯

跡（田中窯跡か）などから廃品を転用するために持ち込んだとみられる。また、長野市高野遺跡からは1点のみだが丸瓦が竪穴建物跡のカマド内から出土しており、こちらも転用するためのものであったと考えられている。近隣の寺院跡としては同じ高井郡の須坂市左願寺廃寺に近いが、その関係性ははっきりとしない。牟礼バイパス地点の瓦の出土量についてはやや特異な点があるが、基本的に集落遺跡から瓦が出土する事例は少ない。そのため、集落遺跡から瓦が出土した場合はその集落に寺院といった瓦葺建物が存在していたというより、転用するために搬入したか、混入した可能性が高い。

瓦の出土＝宗教施設という考えはもちろんであるが、仏教の浸透という側面からすると、瓦が出土しなくても集落内に「堂」のような簡易的な宗教施設が存在していた可能性は十分にあり、瓦塔の出土などはその一端を示すものであると考えられる。御代田町川原田遺跡では、瓦・瓦塔などの出土はみられていないが10世紀代の寺院跡が集落内に確認され、約4m四方の簡易的な礎石建物であったとみられる。建物跡の周囲には宗教空間を明確にする溝がめぐっており、遺跡からは「太平寺」・「大内寺」という寺名が書かれた墨書土器も出土している。

### 生産遺跡

瓦を生産するためには焼成する窯と工房が必要となるが、現在までに東北信地域で工房跡は確認されていない。窯跡については中野市池田端窯跡、上田市信濃国分寺瓦窯跡などが発掘調査によって確認されている。長野市田中窯跡・東沢窯跡、坂城町土井ノ入窯跡など各地で瓦を焼いたとされる窯が指摘されているが、実態が不明な場所が多い。

上田市信濃国分寺瓦窯跡は偶然発見された瓦専用の窯跡であるが、有畦式平窯（以前はロストル式平窯と呼称）という8世紀中頃に中央で採用された最新の技術による窯であることが判明している。なお、池田端窯跡をはじめとする地方窯の多くは須恵器を焼いた窯で瓦も焼いた「瓦陶兼業窯」とみられ、須恵器工人が瓦造りに携わった

と考えられる。余談であるが、茨城県かすみがうら市松山廃寺の近年の発掘調査では、掘立柱建物跡と瓦を成形した際の削り屑が出土したことから、近隣の窯跡との関係から廃寺ではなく常陸国分寺に瓦を供給していた工房跡である可能性が指摘されている。

### 3 瓦からわかること

古代瓦の年代観を計るひとつの指標として、軒丸瓦・軒平瓦といった文様を持つ瓦が研究対象となる。また、年代観だけでなく地域間のつながりや供給関係を示す資料としての側面も持つ。長野市元善町遺跡出土の単弁蓮華文軒丸瓦が滋賀県湖東地域を中心にみられる「湖東式軒丸瓦」に類似している点や、千曲市雨宮廃寺から出土した単弁蓮華文軒丸瓦が千曲川を挟んだ対岸の上石川廃寺、県を越えた新潟県栗原遺跡出土の軒丸瓦と酷似している点など、郡などの狭い地域のみならず国を越えたつながりが垣間見えるのである。残念ながら東北信地域において瓦の供給元と供給先が明確にされている事例は少なく、主に挙げられるのは込山廃寺—土井ノ入窯跡、信濃国分寺跡—信濃国分寺瓦窯跡である。しかし、土井ノ入窯跡にいたっては窯自体が煙滅してしまっているため、詳細を辿ることが難しくなっている。

一方で瓦が遺跡から出土する場合、その多くは文様瓦ではなく丸瓦や平瓦である。一見特徴が無いようにみられるが、粘土を叩き締めるために使用される叩き板の痕跡や、成形台から外しやすくするために粘土と成形台の間に挟まれた布の痕跡、瓦の形状を整える際の調整の回数やケズリ方など、細部を検討することで地域や窯（工人）の特徴がみえてくる。

### 4 おわりに

瓦は土器などの遺物に比べると、使用場所や使用期間が限定的であるがために出土量も少ないが、土器と同様にみえてくることはたくさんある。県内における古代瓦は古い資料も多く、整理が進んでいないものもあるとみられ、見直しや再検討が必要な時期を迎えているのではと思われる。

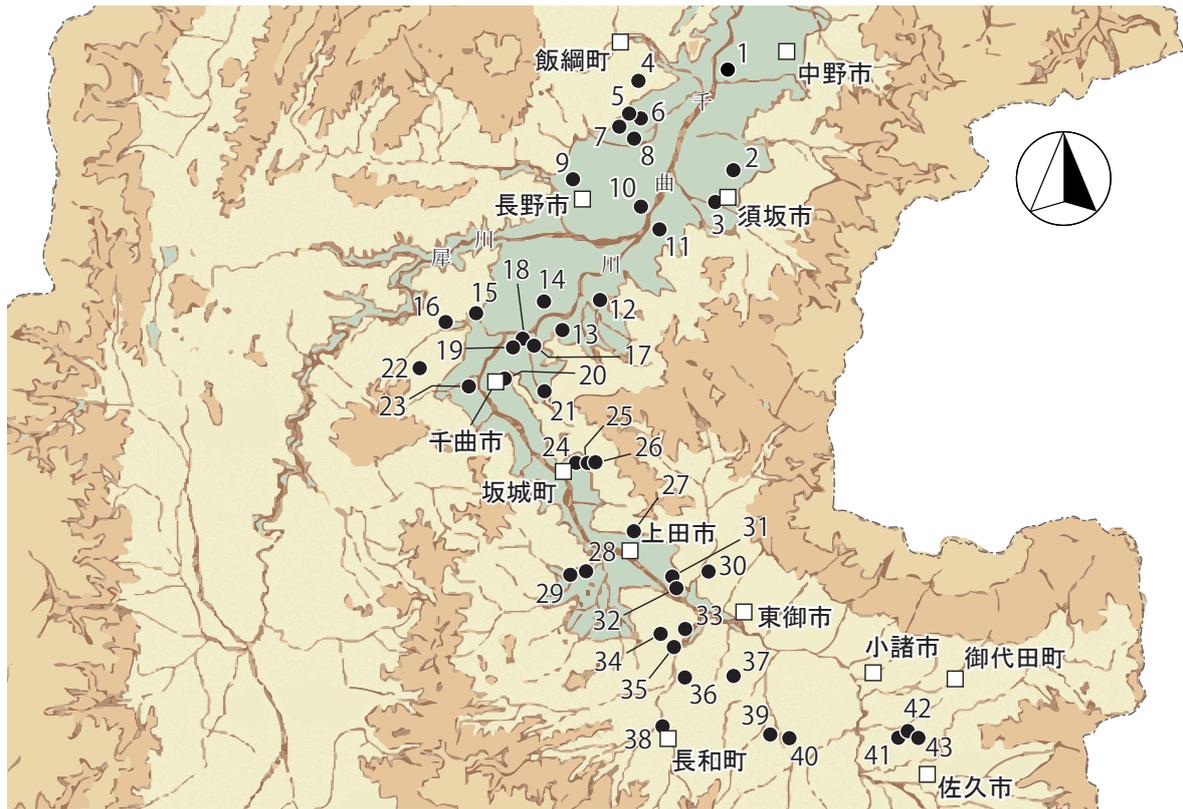
註：

- 1) 米山一政 1978 「信濃の古瓦再論」『中部高地の考古学』
- 2) 黒坂周平 1981 「信濃国分寺の史的性格  
-とくに出土瓦の文様と関連して-」『信濃』第33巻第12号
- 3) 森 郁夫 1986 「古代信濃の畿内系軒瓦 - 国分寺造営期を中心として -」  
『信濃』第38巻第9号
- 4) 倉澤正幸 2009 「信濃国分寺跡の近年の調査成果と関係古窯跡群の検討」  
『法政考古学』第35集
- 5) 鳥羽英継 2014 「信濃国分寺造営初期段階の様相 - 「補修用瓦」  
(「初期瓦」) の分析を通して -」『長野県考古学会誌』149号

参考文献

- 1 飯島哲也 1997 「科野の飛鳥・白鳳期寺院」  
『古代寺院の出現とその背景 第1分冊』埋蔵文化財研究会
- 2 上田市教育委員会 1968 「上田市上平遺跡緊急発掘調査報告』
- 3 上田市教育委員会 1974 「信濃国分寺一本編一」
- 4 上田市教育委員会 2002  
『国分遺跡群』上田市文化財報告書第86集
- 5 上田市教育委員会 2004  
『法楽寺遺跡』上田市文化財報告書第95集
- 6 上田市教育委員会 2006  
『史跡信濃国分寺跡』上田市文化財報告書第100集
- 7 上田市教育委員会 2010  
『史跡信濃国分寺跡』上田市文化財報告書第108集
- 8 上田市誌編さん委員会 2000  
『上田市誌 歴史編(3) 東山道と信濃国分寺』
- 9 上田市立信濃国分寺資料館 2011  
『上田地方の古代・中世の神社と寺院 - 文化財が語る信仰の歴史 -』
- 10 上田・小県誌刊行会 1995  
『上田・小県誌 第六巻 歴史編上(一) 考古』
- 11 宇賀神誠司 1994 「佐久市長土呂出土の軒丸瓦  
- 佐久地方における寺院の草創 -」佐久考古通信No.61
- 12 上水内郡誌編集会 1976 『上水内郡誌 歴史編』上水内郡誌編集会
- 13 倉澤正幸 1999 「古代信濃における平瓦・丸瓦の変遷  
- 上田高田遺跡他出土瓦の検討」『長野県考古学会誌』91号
- 14 倉澤正幸 2016 「長野県の瓦窯構造」  
『中部地方の瓦窯の構造 - 瓦窯の構造研究6 -』
- 15 更埴市教育委員会 1991 『南沖遺跡Ⅲ 五輪堂遺跡Ⅵ』
- 16 更埴市教育委員会 1996 『城ノ内遺跡Ⅳ』
- 17 更埴市教育委員会 1998  
『平成9年度 更埴市埋蔵文化財調査報告書』
- 18 更埴市教育委員会 2002 『屋代遺跡群附松田館』
- 19 更埴市史編纂委員会 1994 『更埴市史 第一巻 古代・中世編』
- 20 小林真寿 2014 「東城公人氏寄贈の長土呂字洪右エ門 1078  
表採遺物」『佐久市文化財年報』22
- 21 坂城町誌刊行会 1981 『坂城町誌 中巻 歴史編(一)』
- 22 佐久市教育委員会 1980 『周防畑遺跡  
長野県佐久市緊急発掘調査報告書』
- 23 佐久市教育委員会 1999 『芝宮遺跡群 高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』  
佐久市埋蔵文化財調査報告書第69集
- 24 佐久市教育委員会 2011 『周防畑遺跡群 南下北原遺跡』  
佐久市埋蔵文化財調査報告書第193集
- 25 佐久市教育委員会 2012 『周防畑遺跡群 若宮遺跡Ⅳ 道常遺跡 南近津  
遺跡Ⅲ 宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ』佐久市埋蔵文化財調査報告書 第198集
- 26 佐久市教育委員会 2013 『周防畑遺跡群 道常遺跡Ⅱ』  
佐久市埋蔵文化財調査報告書第213集
- 27 佐久市教育委員会 2015 『周防畑遺跡群 大豆田遺跡Ⅳ』佐久市  
埋蔵文化財調査報告書第229集
- 28 佐久市教育委員会 2017 『周防畑遺跡群 南近津遺跡Ⅲ 若宮遺跡  
Ⅳ 宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』佐久市埋蔵文化財調査報告書第240集
- 29 佐久市志編纂委員会 1995 『佐久市志 歴史編(一) 原始・古代』
- 30 更級埴科地方誌刊行会 1978 『更級埴科地方誌 第二巻  
(原始 古代 中世編)』
- 31 柴田洋孝 2007 「長野市立博物館所蔵古代瓦」『長野市立博物館  
紀要』第8号
- 32 須坂市誌編さん委員会 2017 『須坂市誌 第三巻 歴史編Ⅰ』

- 33 須坂市立博物館 2000 『特別展 須坂の甍』
- 34 堤隆 2010 『佐久の古代遺跡図鑑』ハケ岳旧石器研究グループ
- 35 鳥羽英継 2014 「屋代地域にも古代の窯が一千曲市森発見の瓦窯  
南殿入窯について」『ちょうま』35号更埴郷土を知る会
- 36 中野市誌編纂委員会 1981 『中野市誌 歴史編(前編)』
- 37 長門町誌編纂委員会 1989 『新編 長門町誌』
- 38 長野市教育委員会 1986 『浅川扇状地遺跡群 一 牟礼バイパス  
B・C・D地点一』長野市の埋蔵文化財第17集
- 39 長野市教育委員会 1992 『浅川扇状地遺跡群 二 二ツ宮遺跡・本堀  
遺跡・柳田遺跡・稲添遺跡』長野市の埋蔵文化財第47集
- 40 長野市教育委員会 1998 『長野遺跡群 西町遺跡』  
長野市の埋蔵文化財第87集
- 41 長野市教育委員会 1999 『綿内遺跡群 高野遺跡』  
長野市の埋蔵文化財第95集
- 42 長野市教育委員会 2001 『南宮遺跡Ⅱ』長野市の埋蔵文化財 第96集
- 43 長野市教育委員会 2002 『四ッ谷遺跡Ⅱ』長野市の埋蔵文化財  
第100集
- 44 長野市教育委員会 2006 『長野遺跡群 善光寺門前町跡』  
長野市の埋蔵文化財第115集
- 45 長野市教育委員会 2008 『長野遺跡群 元善町遺跡 善光寺門前  
町跡(2)』長野市の埋蔵文化財第121集
- 46 長野市教育委員会 2009 『長野遺跡群 元善町遺跡(2)』  
長野市の埋蔵文化財第123集
- 47 長野市教育委員会 2015 『松原遺跡(6)』長野市の埋蔵文化財  
第141集
- 48 長野市教育委員会 2016 『長野遺跡群 善光寺門前町跡(4)』  
長野市の埋蔵文化財第142集
- 49 長野市誌編さん委員会 2000 『長野市誌 第二巻 歴史編  
原始・古代・中世』
- 50 長野市誌編さん委員会 2003 『長野市誌 第十二巻 資料編  
原始・古代・中世』
- 51 長野県教育委員会 1995 『長野県埋蔵文化財発掘調査要覧  
その5 昭和58年度～昭和61年度』
- 52 長野県史刊行会 1982 『長野県史 考古資料編 全1巻(2)  
主要遺跡(北・東信)』
- 53 長野県史刊行会 1988 『長野県史 考古資料編 全1巻(4)  
遺構・遺物』
- 54 長野県埋蔵文化財センター 1997 『飯田古屋敷遺跡・玄照寺跡・  
がまん淵遺跡・沢田鍋土遺跡・清水山窯跡・池田端窯跡・牛出古遺  
跡』長野県埋蔵文化財発掘調査報告書24
- 55 長野県埋蔵文化財センター 1999 『更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含  
む大境遺跡・窪河原遺跡) - 古代1編 -』  
長野県埋蔵文化財発掘調査報告書42
- 56 長野県埋蔵文化財センター 2014 『佐久市 周防畑遺跡群』  
長野県埋蔵文化財発掘調査報告書105
- 57 長野県埋蔵文化財センター 2015 『佐久市 西近津遺跡群』  
長野県埋蔵文化財発掘調査報告書104
- 58 長野県埋蔵文化財センター 2018 『長野県埋蔵文化財センター  
年報34 2017』
- 59 林和男 1985 「一遺跡紹介 - 吉田廃寺」『上小考古』18
- 60 丸子町誌編纂委員会 1992 『丸子町誌 歴史編 上』
- 61 丸子町誌編纂委員会 1992 『丸子町誌 歴史資料編』
- 62 丸子町教育委員会 1979 『深町一深町遺跡緊急発掘調査概報一』
- 63 御代田町誌編纂委員会 1998 『御代田町誌 歴史編  
上 - 原始・古代・中世 -』
- 64 御代田町教育委員会 1993 『川原田遺跡 平安・中世編』
- 65 牟礼村誌・学校誌編纂委員会 1997 『牟礼村誌 上 自然 原始  
古代 中世 近世』
- 66 牟礼村教育委員会 1992 『平出遺跡群発掘調査報告書  
- 県道長野・荒瀬原線バイパス工事に伴う発掘調査』
- 67 望月町誌編纂委員会 1994 『望月町誌 第三巻 歴史編 -  
原始・古代・中世編』
- 68 望月町教育委員会 1986 『岩清水遺跡』  
望月町文化財調査報告書第16集



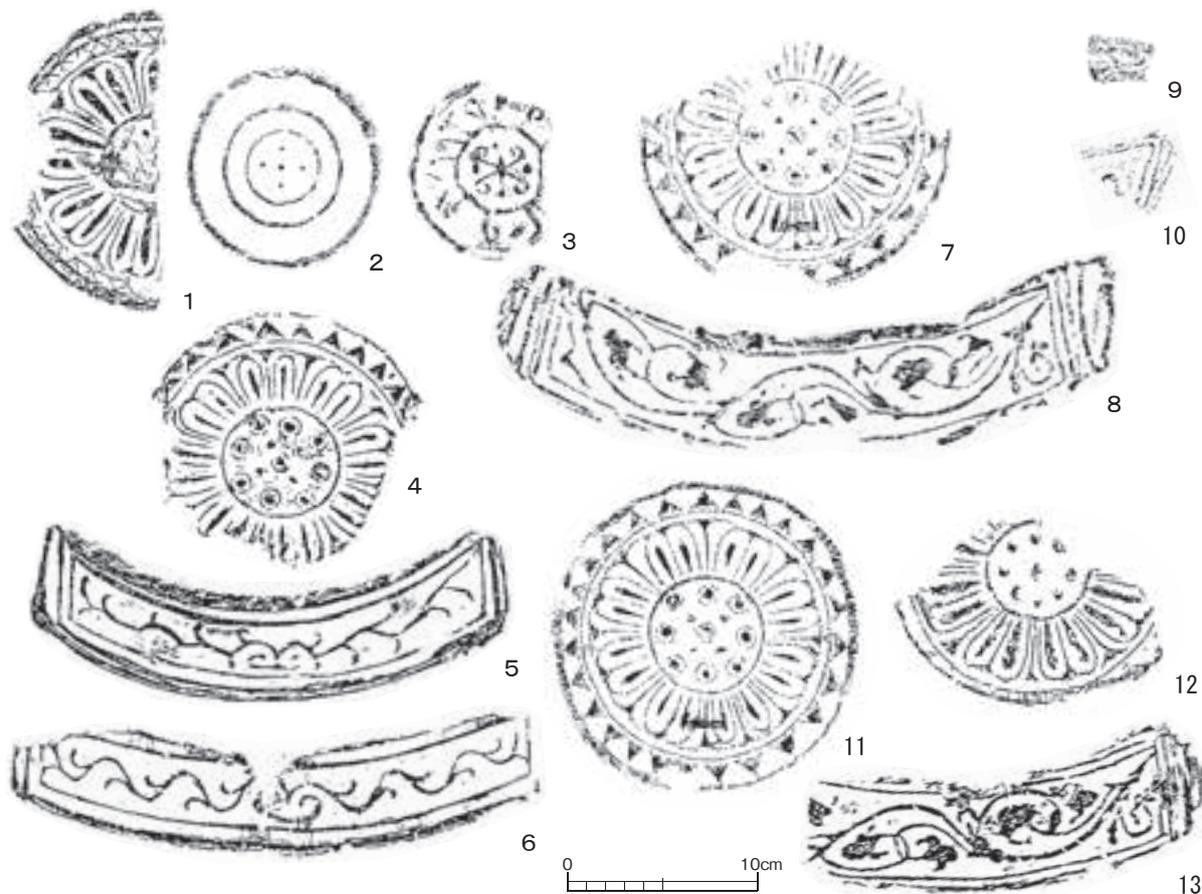
第1図 長野県東北信地域古代瓦出土地点

長野県東北信地域古代瓦出土地点一覧表

番号	遺跡名	所在地	詳細				備考	文献
			時代	種別	主な遺構	主な遺物		
1	池田端窯跡	中野市立ヶ花	古～平	窯跡	竪穴建物跡・粘土採掘坑・半地下式登窯ほか	土師器・須恵器・丸瓦・平瓦ほか		54
2	左願寺廃寺	須坂市小河原	(奈)	(寺院)	—	土師器・須恵器・軒丸瓦・軒平瓦	元善町遺跡・信濃国分寺跡と同文様瓦出土	1・32 33
3	八幡裏遺跡	須坂市小山八幡裏	(弥～奈)	(集落)	—	弥生土器・土師器・平瓦	試掘	32・33
4	西浦遺跡	飯綱町平出	平	集落	粘土採掘坑	土師器・須恵器・平瓦ほか		66
5	東沢窯跡	長野市三才	(奈)	窯跡	—	軒丸瓦・平瓦		12
6	田中窯跡	長野市若槻	(奈)	窯跡	—	軒平瓦・平瓦		12
7	浅川扇状地遺跡群 牟礼バイパス B・C・D地点	長野市若槻	弥～平・近	集落	竪穴建物跡・溝・土坑・墓ほか	弥生土器・土師器・須恵器・瓦類(軒丸・軒平・丸・平)ほか	元善町遺跡出土土軒瓦と同范瓦出土	38
8	二ツ宮・本掘・柳田・稲添遺跡	長野市稲田・徳間	弥～中	集落	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・溝・土坑ほか	弥生土器・土師器・須恵器・軒平瓦・平瓦・瓦塔ほか		39
9	元善町遺跡	長野市元善町	古～近	集落 (寺院)	竪穴建物跡・盛土造成・礎石状遺構・石積・土坑ほか	土師器・須恵器・陶磁器・瓦類(軒丸・軒平・丸・平ほか) 塑像ほか	県内初湖東式軒丸瓦出土 牟礼バイパス・左願寺廃寺・信濃国分寺跡と同范・同文様瓦出土	45・46
	善光寺 門前町跡	長野市大門町	古・中～近	集落	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑ほか	土師器・須恵器・丸瓦・平瓦・鴟尾・瓦塔ほか		44・45 48
	西町遺跡	長野市若松町	縄～近	集落	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑ほか	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・軒平瓦・丸瓦・瓦塔ほか		40
10	小島・柳原遺跡群	長野市柳原	奈～近	集落	竪穴建物跡・溝・堀・土坑・墓ほか	土師器・須恵器・平瓦・五輪塔・金属製品ほか	塔鏡形合子出土	58
11	高野遺跡	長野市若穂	弥～平	集落	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・墓ほか	弥生土器・土師器・須恵器・丸瓦ほか		41
12	松原遺跡	長野市松代	縄～中	集落	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・鍛冶遺構・土坑・墓ほか	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・丸瓦・石製品・木製品・金属製品ほか		47

13	四ッ谷遺跡	長野市松代	弥～平	集落	竪穴建物跡・礎石建物跡・土坑・溝ほか	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・丸瓦ほか	近隣に「道鳥廃寺」とされる瓦出土地点があるが、詳細は不明	43
14	南宮遺跡	長野市篠ノ井	平	集落	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・溝ほか	土師器・須恵器・灰釉陶器・羽口・丸瓦・土製品ほか		42
15	上石川廃寺	長野市篠ノ井	(奈)	(寺院)	(塔心礎)	軒丸瓦・丸瓦・平瓦		1・30 49
16	原市場窯跡 (信田古窯跡群)	長野市信更	平	窯跡	—	須恵器・軒平瓦・平瓦	周辺に複数の瓦散布地あり(専照寺裏・大峰遺跡ほか)	19・30
17	雨宮廃寺	千曲市雨宮	奈・平	寺院	礎石建物跡・礎敷遺構	軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦	新潟県栗原遺跡と同文様軒丸瓦出土 埴科郡定額寺「屋代寺」か	19・30 52
	大宮遺跡	千曲市雨宮	弥～中	集落	竪穴建物跡・土坑・溝ほか	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・丸瓦・平瓦ほか		17・19
18	屋代遺跡群	千曲市屋代	縄～中	集落 (郡衙)	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・溝ほか	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦類(軒平・丸・平)・瓦塔・木製品・金属製品ほか		18・55
19	城ノ内遺跡	千曲市屋代	弥～中	集落	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・堂跡・土坑・溝ほか	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・丸瓦・平瓦ほか		16・30
20	南殿入窯跡	千曲市森	(奈)	窯跡	—	須恵器・丸瓦・平瓦	表採	35
21	五輪堂遺跡	千曲市粟佐	古～平	集落	竪穴建物跡・堂跡・土坑・溝ほか	土師器・須恵器・灰釉陶器・軒丸瓦ほか	堂跡は平安末～中世とみられる	15・19
22	上日向窯跡	千曲市大田原	奈	窯跡	半地下式登窯	須恵器・平瓦		19・30
23	青木遺跡 (青木廃寺)	千曲市八幡	(平)	集落 (寺院)	掘立柱建物跡	軒平瓦・平瓦・瓦塔		19・30
24	込山廃寺	坂城町坂城	(奈)	寺院	礎石列	軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦	土井ノ入窯跡から供給か	21・30
25	岡ノ原窯跡	坂城町坂城	(奈)	窯跡	—	須恵器・平瓦		21・30
26	土井ノ入窯跡	坂城町坂城	(奈)	窯跡	半地下式登窯	須恵器・瓦類(軒丸・軒平・丸・平)	煙滅	21・30
27	上平窯跡	上田市上平	奈	窯跡	半地下式登窯	須恵器・丸瓦・平瓦		2・10
28	東村遺跡 (吉田廃寺)	上田市吉田	(奈)	(寺院)	—	軒平瓦・平瓦		9・59
29	高田遺跡	上田市小泉	奈・平	(郡衙)	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・板塀跡・溝ほか	土師器・須恵器・丸瓦・平瓦ほか	郡衙の出先、もしくは郡衙か	8・9 10
30	法楽寺遺跡	上田市殿城	弥～中	集落	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・溝ほか	弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・丸瓦・平瓦ほか	銅印・金銅三尊仏・馨出土	5・8
31	国分遺跡群	上田市国分	奈・平	(寺院附属施設)	掘立柱建物跡・道路状遺構ほか	土師器・須恵器・瓦類(軒丸・軒平・丸・平ほか)・金属製品ほか	道路状遺構は南北に走行 錫杖鋳型出土	4・8
32	信濃国分寺 僧寺跡	上田市国分	奈・平	寺院	金堂・講堂・塔・僧坊・中門・南大門・西門・回廊ほか	土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・円面硯・瓦類(軒丸・軒平・丸・平ほか)・金属製品ほか	東大寺式軒丸瓦 西隆寺指揮軒平瓦 和銅開珎出土	3・6 7・8 10・52
	信濃国分寺 尼寺跡	上田市国分	奈・平	寺院	金堂・講堂・尼坊・経蔵・中門・北門ほか			
	信濃国分寺 瓦窯跡	上田市国分	奈・平	窯跡	半地下式有畦式平窯	土師器・須恵器・瓦類(軒丸・軒平・丸・平ほか)	「更」文字瓦	3・8 10
	明神前遺跡	上田市国分	奈・平	(寺院附属施設)	竪穴建物跡・工房跡ほか	土師器・須恵器・灰釉陶器・羽口・軒丸瓦・平瓦ほか	「伊」文字瓦 国分寺修理院か	3・8
33	深町遺跡	上田市生田	縄・平	集落	竪穴建物跡・鍛冶遺構ほか	縄文土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・軒丸瓦・平瓦ほか		9・10 61・62
34	新原田新開窯跡 (依田古窯跡群)	上田市御岳堂	奈・平	窯跡	半地下式登窯	土師器・須恵器・平瓦	窯体に平瓦を転用 信濃国分寺に供給か	9・10 61
35	諏訪田遺跡	上田市御岳堂	奈・平	集落	竪穴建物跡・掘立柱建物跡ほか	土師器・須恵器・灰釉陶器・円面硯・瓦類(軒平・丸・平)ほか	依田古窯跡群を管理か	9・10 61
36	大狭間遺跡	上田市丸子	奈・平	(寺院)	—	軒丸瓦・丸瓦・平瓦		9・10 61
37	幸上窯跡 (八重原窯跡群)	東御市中八重原	奈・平	窯跡	(平地式平窯)	丸瓦・平瓦	信濃国分寺に供給か	63
38	六反田遺跡	長和町古町	縄・弥・奈・平	集落 (寺院)	竪穴建物跡・掘立柱建物跡ほか	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・軒丸瓦・丸瓦・平瓦ほか		9・37

39	天神反遺跡 (天神反庵寺)	佐久市 茂田井	(奈・平)	(寺院)	礎石群	軒丸瓦・丸瓦・平瓦		29・67
40	岩清水遺跡	佐久市望月	縄・古～中	集落	竪穴建物跡・鍛冶遺構・ 土坑ほか	縄文土器・土師器・須 恵器・灰釉陶器・布目瓦・ 埴・内耳鍋ほか		51・68
41	西近津遺跡群 (県埋文調査)	佐久市 長土呂	縄～近	集落	竪穴建物跡・掘立柱建 物跡・周溝墓・土坑・ 溝ほか	縄文土器・弥生土器・ 土師器・須恵器・灰釉 陶器・平瓦・金属製品 ほか	銅印出土 「大井寺」墨書土器出土	57
	周防畑遺跡群 (県埋文調査)	佐久市 長土呂	縄・弥・奈・ 平	集落 (寺院)	竪穴建物跡・掘立柱建 物跡・周溝墓・(礎石) ほか	縄文土器・弥生土器・ 土師器・須恵器・灰釉 陶器・軒丸瓦・丸瓦・ 平瓦ほか		56
	道常遺跡	佐久市 長土呂	弥～中	集落	竪穴建物跡・土坑・溝 ほか	土師器・須恵器・灰釉 陶器・丸瓦・平瓦・金 属製品ほか		25・26
	大豆田遺跡	佐久市 長土呂	弥・奈～中	集落	竪穴建物跡・掘立柱建 物跡・土坑・溝ほか	弥生土器・土師器・須 恵器・陶磁器・軒丸瓦 石製品ほか		27
	南近津遺跡	佐久市 長土呂	弥・奈	集落	竪穴建物跡・掘立柱建 物跡・土坑・溝ほか	弥生土器・土師器・須 恵器・緑釉陶器・丸瓦・ 平瓦・金属製品ほか	ククル鉤・門金具出土 置きカマド出土	28
	宮の前遺跡	佐久市 長土呂	弥～中	集落	竪穴建物跡・掘立柱建 物跡・周溝墓・土坑・ 溝ほか	弥生土器・土師器・須 恵器・灰釉陶器・緑釉 陶器・丸瓦・平瓦・金 属製品ほか		25・28
42	南下北原遺跡	佐久市 長土呂	奈・平	集落	竪穴建物跡・土坑・溝 ほか	土師器・須恵器・丸瓦・ 平瓦・金属製品ほか		24・34
	—	佐久市 長土呂	—	—	—	軒丸瓦	表採(昭和36年工場造成 工事の残土中)第4図-21	11
43	高山遺跡	佐久市 長土呂	平	集落	竪穴建物跡・掘立柱建 物跡・土坑・溝ほか	土師器・須恵器・灰釉 陶器・平瓦ほか		23



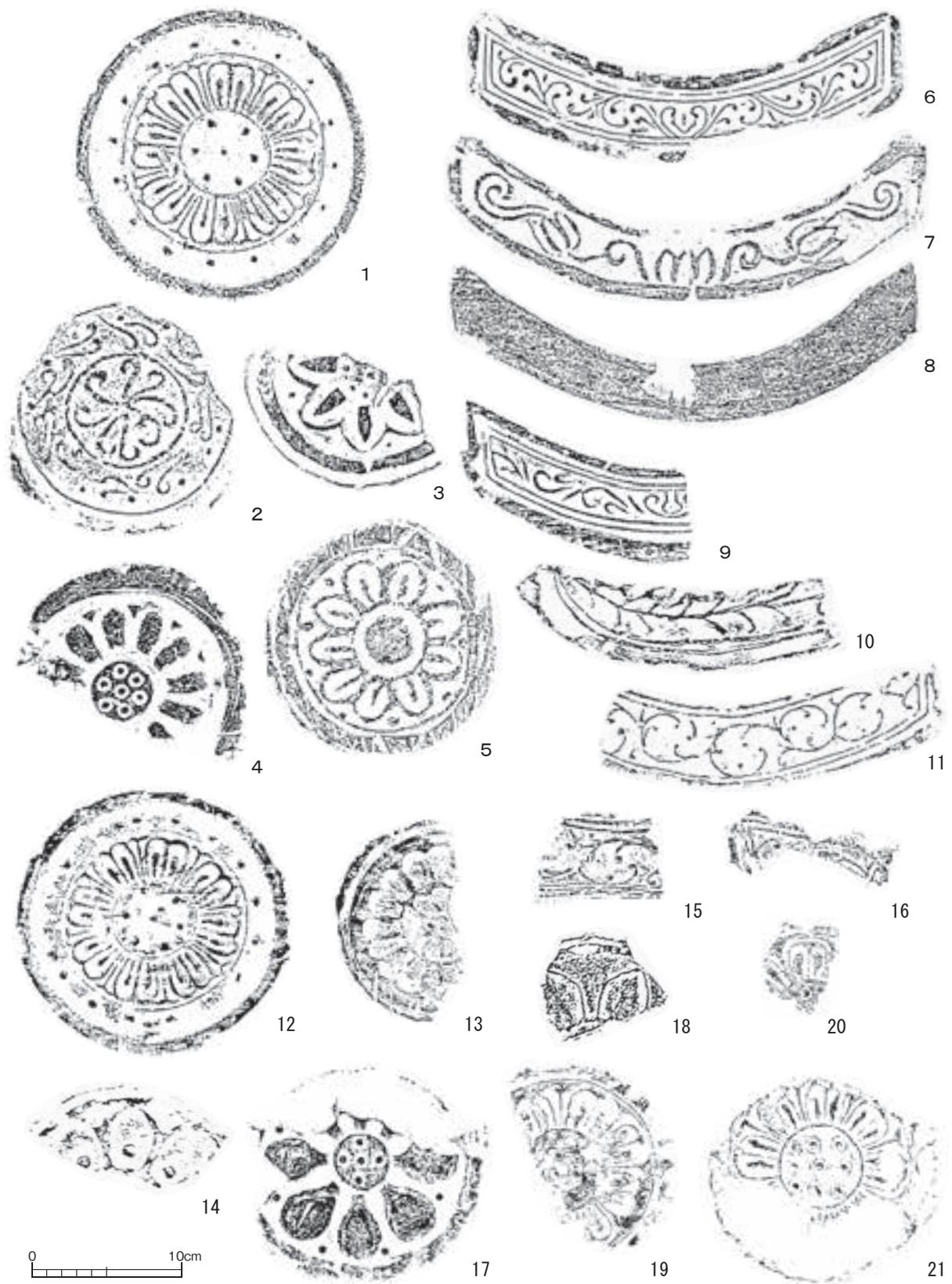
第2図 長野県東北信地域出土古代瓦(1)

1～3:左願寺庵寺(文1・52) 4:東沢窯跡(文52) 5・6:田中窯跡(文52) 7・8:浅川扇状地遺跡群牟礼バイパスB・C・D地点(文46・52) 9・10:二ツ宮・本掘・柳田・稲添遺跡(文39) 11～13:善光寺境内(文46・52)



第3図 長野県東北信地域出土古代瓦 (2)

1:善光寺境内 (文 52) 2~6:元善町遺跡 (文 45・46) 7:西町遺跡 (文 40) 8~12:上石川廃寺 (文 1・52) 13~15:雨宮廃寺 (文 52) 16~18:込山廃寺 (文 52) 19~23:土井ノ入窯跡 (文 52)



第4図 長野県東北信地域出土古代瓦 (3)

1～11: 信濃国分寺跡 (文52) 12・13: 明神前遺跡 (文52) 14: 深町遺跡 (文62) 15・16: 諏訪田遺跡 (文52) 17: 大狭間遺跡 (文61) 18: 天神反遺跡 (文52) 19: 周防畑遺跡群 (文55) 20: 大豆田遺跡 (文21) 21: 佐久市長土呂表採 (文11)

**長野県埋蔵文化財センター年報 34 2017 年度**

発行日 2018（平成 30）年 3 月 23 日  
編集発行 （一財）長野県文化振興事業団  
長野県埋蔵文化財センター  
〒 388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4  
電話：026-293-5926 FAX：026-293-8157  
E-mail：info@naganomaibun.or.jp  
印刷 三和印刷株式会社